

國 情 講 義

2007年度

# 講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

義

講

科 目 名			
コース演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	上 野 勝 男

**【講義概要・学習目標】**

演習の課題は、大きく分けて2つです。

- (1) 「中国ビジネス」のキャリアを作り上げていくために、どんな知識をどのような段階・手順をふんで身につけていったらよいか、共に議論しながら考えていくということ、
- (2) 3年生春からの中国留学研修に必要な準備をしっかりと進める、ということです。

**【講義計画】**

最初の授業で、上記の2つの課題に沿った年間の授業計画を示しますので、よく注意してください。

**【成績評価の方法】**

授業への出席、課題レポートなどの成績を総合的に評価しておこないます。

**【参考文献】**

随時示します。

科 目 名			
コース中国語ⅠA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語と基本的な文法項目を学習し、中国語の挨拶、応答表現や簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて入門段階における文法項目、それを用いて簡単な中国語での作文ができるようになることを目指す。入門レベルの中国語を習得することを目指す。

**【講義計画】**

- 1、発音、声調
- 2、人称代詞
- 3、<是>の文、指示代詞
- 4、数字、疑問文
- 5、一般動詞の文
- 6、動詞<有><在>
- 7、連動文

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度などを総合的に評価する

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』小学館。または電子辞書。

か  
行

科 目 名			
コース中国語 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	チン 陳 バイ 梅 イン 隠

**【講義概要・学習目標】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。

従って、この授業では日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とし、発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、面白い中国語（日本語の漢字と一緒だが、意味はまったく違う言葉等）の勉強を通して、中国語の学習に対する興味を起こし、単語の量を増やすことを望んでいる。時間の余裕があれば中国映画の鑑賞を実行し、中国の文化をたくさんの角度から分かってもらいたい。

**【講義計画】**

授業の90分のうち60分で会話を中心とする授業を行う。最初の9週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では練習を加え9回（9週）をかけて発音の授業を進めたい。

その後の授業は日常会話でよく使われている文法を中心に進めたいと思う。授業の次の週は練習とし、生徒の実習を中心とする。具体的には文法を復習しながら、会話の練習を行う。

残りの30分は「面白い中国語」と中国の文化や風習についての学習を中心としたい。日本語と中国語ではいろいろな共通点があるものの、相違点もたくさんある。たとえば、同じ漢字である「娘」だが、日本語の意味が「子供の女性の方」となっているが、中国語の意味では「母親」となっている。このような単語がたくさんあるが、よく使う単語の紹介を通して、中国語に対する興味を起こす一方、使い方を間違えないように注意してほしい。この「面白い中国語」とあわせて中国の文化、風習も紹介する。

**【成績評価の方法】**

前期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

授業中に指示する

科 目 名			
コース中国語 II A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法項目を学習し、中国語での簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて初級段階における文法項目を学習し、それを望井で簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。初級レベルの中国語を学習することを目指す。

**【講義計画】**

- 1、形容詞述語文
- 2、方向補語、様態補語
- 3、可能補語、助動詞<会><能><可以>
- 4、結果補語、前置詞
- 5、選択疑問文、過去の経験、完了
- 6、存現文、進行形、持続形
- 7、使役文、受身文、感嘆文、接続詞

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度などを総合的に評価する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』小学館。または電子辞書

科 目 名			
コース中国語ⅡB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	チン 陳 バイ 梅 イン 隠

**【講義概要・学習目標】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。

従って、この授業では日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とし、発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、面白い中国語（日本語の漢字と一緒だが、意味はまったく違う言葉等）の勉強を通して、中国語の学習に対する興味を起し、単語の量を増やすことを望んでいる。時間の余裕があれば中国映画の鑑賞を実行し、中国の文化をたくさんの角度から分かってもらいたい。

**【講義計画】**

授業の90分のうち60分で会話を中心とする授業を行う。最初の9週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では練習を加え9回（9週）をかけて発音の授業を進めたい。

その後の授業は日常会話でよく使われている文法を中心に進めたいと思う。授業の次の週は練習とし、生徒の実習を中心とする。具体的には文法を復習しながら、会話の練習を行う。

残りの30分は「面白い中国語」と中国の文化や風習についての学習を中心としたい。日本語と中国語ではいろいろな共通点があるものの、相違点もたくさんある。たとえば、同じ漢字である「娘」だが、日本語の意味が「子供の女性の方」となっているが、中国語の意味では「母親」となっている。このような単語がたくさんあるが、よく使う単語の紹介を通して、中国語に対する興味を起す一方、使い方を間違えないように注意してほしい。この「面白い中国語」とあわせて中国の文化、風習も紹介する。

**【成績評価の方法】**

前期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

最初の授業で指定する。

**【参考文献】**

授業中に指示する

科 目 名			
コース中国語ⅢA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語ⅢAは、中国語を1年間勉強した学生に対して、発音の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。1年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーションの力をつけるように授業を進める。

**【講義計画】**

- ・ 1～3回は、1年次の学習内容を復習しながら、新しい内容に入る。
- ・ 4～12回は、場面による会話を中心に学ぶ。旅行、友達など。文法項目としては、助動詞、主述述語文、「理由・原因」を表す文、逆説を表すことば、文末助詞、連動文、「是～的」の文、疑問詞、「了」の用法、副詞、結果保護、假定表現について学習する。
- ・ 最終の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。春学期で教科書の半分程度を終了する予定。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

竹島金吾 監修 『<新版>中国語さらなる一歩』 白水社

**【参考文献】**

- 相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』 同  
学社  
相原茂 編著 『中国語学習ハンドブック』 大修館書店

科 目 名			
コース中国語ⅢB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	徐 羽 厚 <small>ジョウ ユ コウ</small>

**【講義概要・学習目標】**

一年生のとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話力をしっかりと身につけることが目標である。そのために：  
生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します。バラエティに富む反復練習で学習をサポートします。ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

- 1、今使われる教科書の継続  
part 6  
街中で、買い物に行く、食事をする、トラブル解消などの学習と会話練習
- 2、新しい教科書  
第一課～第四課  
オフィスを訪ねる、レストランに食事に行く、銀行にて、商談をする、などの内容の学習と会話練習。

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

金丸健二著 「いちばん役立つビジネス中国語会話」 (池田書店) 2005年  
三瀬正道、金子伸一著 「やさしいビジネス中国語」 (朝日出版社) 2006年

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」(隆美出版社) 2002年 または電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習に参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース中国語ⅣA			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	神 道 美映子

**【講義概要・学習目標】**

中国語ⅣAは、中国語を1年半勉強した学生に対して、正確な発音の徹底と表現力のさらなる向上を目指すものである。ⅢAとⅣAを通じて1年間で新たに600語～700語程度の語彙をマスターできるように努力する。ヒヤリング力も強化するよう授業を進める。

**【講義計画】**

- ・1～3回は、ⅢAの学習内容を復習しながら、新しい内容に入る。
- ・4～12回は、引き続き場面による会話を中心に学習を進める。映画、買い物、食事など。文法項目としては、状態の持続、副詞、部分否定、方向補語、使役、疑問詞の不定用法、可能補語、強調表現、推測、結果補語、受身、介詞について学ぶ。
- ・最終の2回はこれまでの学習内容を復習する。適宜、小テストを行う。秋学期で教科書を終了する予定。

**【成績評価の方法】**

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

竹島金吾 監修 『<新版>中国語さらなる一歩』 白水社

**【参考文献】**

興水優 他 『中国語図解辞典』 大修館書店  
劉月華 他 『現代中国語文法総覧』 くろしお出版

科 目 名			
コース中国語ⅣB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	徐 <sup>ジョ</sup> 羽 <sup>ウ</sup> 厚 <sup>コウ</sup>

**【講義概要・学習目標】**

一年生のとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話力をしっかりと身につけることが目標である。そのために：

生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します  
バリエーションに富む反復練習で学習をサポートします。  
ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

新しい教科書

第5課～第13課

有給休暇をとる、フライトを待つ、アフタサービス、コンテナ輸送、待遇、国際入札、財務、などの内容の学習と会話練習

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

金丸健二著 「いちばん役立つビジネス中国語会話」 (池田書店) 2005年

三瀧正道、金子伸一著「やさしいビジネス中国語」 (朝日出版社) 2006年

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」 (隆美出版社) 2002年 または電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二年次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科 目 名			
コース特講－HSKトレーニング			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	2単位	坂井田 夕起子

**【講義概要・学習目標】**

秋のHSK (漢語水平考試) 受験に向けた講義と練習を行い、中国語運用能力のレベルアップを目指す。

**【講義計画】**

練習問題を中心に授業を進め、適宜、講義も行う。

**【成績評価の方法】**

最終日にテストを行い評価する。

**【教科書】**

授業中に配布する。

**【参考文献】**

授業中に指定する。

か  
行

科 目 名			
国際会計論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	柴 理梨亜

**【講義概要・学習目標】**

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では会計もその影響に対応していかなければならない。1973年に日本も参加して発足した国際会計基準委員会が、現代のニーズに対応するためにその組織改革を実施した。そして、グローバル・スタンダードを目指す国際財務報告基準は世界中で認識されるようになってきた。

日本でも民間の会計基準設定機関「企業会計基準委員会 (ASBJ)」が設置され、2005年から国際財務報告基準との調和化または統合化に向けた協議が開始される。

本講義では、グローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準とその歩みについて学ぶことに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになることも目的である。

受講するに当たって、簿記と会計の基礎知識と興味が必要条件。

**【講義計画】**

1. 国際会計
2. 国際会計基準委員会の歩みと改革
3. IASCOと会計基準のグローバル・スタンダード
4. 国際財務報告基準がめざすもの
5. 基準ができるまでの流れ
6. 主要な国際財務報告基準
7. 日本の基準と比較して
8. 英文財務諸表を読む

**【成績評価の方法】**

出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。教科書の指定がないので授業中の解説が勉強の中心となります。合格するためには遅刻欠席をしないことが大切。

**【教科書】**

授業中にプリントや新聞記事のコピーを配布

**【参考文献】**

中央青山監査法人 (編)「国際会計基準なるほどQ&A知っておきたい102のポイント」中央経済社

徳賀芳弘 (著)「国際会計論相違と調和」中央経済社

飯田信夫 (著) 国際会計教育協会 (編)「国際財務報告基準 (IFRS) 入門日本基準との違いをみる」財経詳報社

西川郁生 (監修) JUSCPA国際会計基準専門部会 (著)「よくわかる国際会計基準」IAS第2版、中央経済社

科 目 名			
国際関係論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 村 昌 廣

**【講義概要・学習目標】**

注意！！

この講義は「原論」のコースです。したがって、極めて哲学的、理論的、理屈詰めの内容となります。社会科学の基礎的な素養がないと、ついてこれない可能性が強いです。動機付けの強い学生向きです。「国際」という名前に迷わされないように留意してください。楽しく入門的な内容を希望する学生は、ビデオなどを多用する「国際政治事情研究」の方を履修することをすすめます。

国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。

**【講義計画】**

- 1 導入
  - 1) 国際関係論と国際関係における日本
  - 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
  - 3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
    - (1) 現実主義 VS 理想主義
    - (2) 伝統主義 VS 科学主義
    - (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
    - (4) 講師の見解
- 2 総論
  - 1) 基本的捉え方
    - (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム
    - (4) 講師の見解
  - 2) 分析のレベル
    - (1) 政策決定システム (2) 国家システム
    - (3) 国際システム (4) 講師の見解
- 3 各論
  - 1) 軍事的側面
    - (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解
  - 2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発)
    - (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義
    - (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解
  - 3) 秩序づけのための組織化側面
    - (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム
- 4 結論
  - 1) 冷戦後の国際構造
  - 2) 日本の国際行動とその将来

**【成績評価の方法】**

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1) 出席・受講状態 | 50%         |
| 2) 前期試験    | 20%         |
| 3) 後期試験    | 30%         |
| 4) 冬休みレポート | 20% (希望者のみ) |

**\*冬休みレポート**

参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しない。

**\*評価の目安**

- |         |      |
|---------|------|
| 80~100% | ・・・A |
| 70~79%  | ・・・B |
| 60~69%  | ・・・C |

**【教科書】**

P・ビオティ&M. カピ『国際関係論』(彩流社)  
ロバート・ギルピン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社)

但し、後者については絶版となっているので、必要箇所をコピーの上配付する。前者については、各人、確保すること。



**【参考文献】**

E・H・カー『危機の20年』（岩波文庫）  
 モーゲンソー『国際政治』（福村出版）  
 シューマン『国際政治』（東大出版社）

**【備考】**

<02～07生対象>

共通自由科目としてJ生対象外

J生は学科教育科目（02～05生対象）

## 科 目 名

## 国際機構論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	軽 部 恵 子

**【講義概要・学習目標】**

この講義では国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器、貧困、環境など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について知りたい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。

国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎的知識を確認しながら講義を進めます。したがって、秋学期に国際法を履修する人は、春学期の国際機構論から履修するよう強くすすめます。国際機構論と国際法の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際問題に関する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ（HP）も教材として積極的に使用します。

**【講義計画】**

1. 国際機構とは何か：「国際」の意味、国際機構の定義
2. 初期の国際機構：宗教改革、三十年戦争、フランス革命、ナポレオン戦争、ウィーン体制、赤十字国際委員会、ハーグ平和会議、国際行政連合
3. 第一次世界大戦と国際連盟の設立：ウィルソン大統領の「14カ条」、パリ講和会議、国際連盟規約 他
4. 第二次世界大戦と国際連合の設立：大西洋憲章、ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議 他
5. 国連の目的と仕組み：国連憲章、総会、安全保障理事会、事務総長、経済社会理事会、人権理事会、国連HP実習
6. 国際の平和と安全の維持：安保理と拒否権、朝鮮戦争、幻の「国連軍」、中東問題、湾岸危機と湾岸戦争、アメリカ同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争 他

**【成績評価の方法】**

学期末試験

※ 教室で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。

**【教科書】**

- ①成美堂出版編集部『一冊でわかる、イラストでわかる図解世界史』成美堂出版 2006年
- ②国連広報局編『国際連合の基礎知識』増補改訂第7版、世界の動き社 2005年
- ③教員作成の資料（配布予定は随時掲示されますので、常に掲示板を見て下さい）

**【参考文献】**

— 国際法のページも見て下さい —

- ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連 半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年
- ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 2000年
- ・白井久和、馬橋憲男編『新しい国連』有信堂高文社 2004年
- ・庄司真理子、宮脇昇編著『グローバル公共政策入門』見洋書房 2007年
- ・緒方貞子『紛争と難民：緒方貞子の回想』集英社 2006年
- ・外務省外務報道官編『世界の国一覧表』世界の動き社 年刊
- ・勝野正恒、二村克彦編『国際公務員をめざす若者へ：先輩からのメッセージ』国際書院 2005年
- ・川鍋道子『国際機関資料検索ガイド』東信堂 2003年
- ・高井晉『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年
- ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年
- ・最上敏樹『国際機構論』第2版 東大出版会 2006年
- ・最上敏樹『国連とアメリカ』岩波書店 2005年
- ・吉田康彦『図解国連のしくみ』日本実業出版社 1995年
- ・辻原康夫『大発見！あなたの知らない世界地図』ナツメ社 2006年
- ・前澤桃子『図解雑学日本の歴史』ナツメ社 2006年
- ・水村光男監修『この「戦い」が世界史を変えた』青春出版社 2003年

- ・野島博之監修『一冊でわかる、イラストでわかる図解日本史』成美堂出版 2006年
- ・まがいまさこ、堀洋子『もう一度学びたい世界の歴史』西東社 2005年
- ・渡辺和子監修『もう一度学びたい世界の宗教』西東社 2005年
- ・国際地学協会『国旗と地図』国際地学協会 2004年

**【備考】**

履修登録する前に、教員作成の「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。

科 目 名

国際金融論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	一ノ瀬 篤

**【講義概要・学習目標】**

国際収支および為替相場についての基礎知識を身につけることが目標であり、講義の内容でもある。制度、最近の歴史についての知識を中心に説明する。面倒な数学的考察はしない。ほぼ、「1週間に1章」のペースで講義するが、多少のズレはありうる。

**【講義計画】**

- (1) 円高・円安とは何か
- (2) 円高になるとなぜ経済界は騒ぐのか
- (3) 金本位制とは何か
- (4) ブレトン・ウッズ体制とは何か
- (5) ニクソン・ショックとはどんな事件なのか
- (6) 変動相場制の理念と現実
- (7) 経常収支とは何か  
中間試験
- (8) 貿易と為替相場とはどんな関係があるのか
- (9) 資本収支とは何か
- (10) 日本の対外投資は為替相場とどのように関係するのか
- (11) 国際収支：まとめ
- (12) 為替相場はどのようにして決定されるのか
- (13) 円の国際化とはどういうことか

**【成績評価の方法】**

中間試験と期末試験の双方を均等に評価。中間試験を受験できない場合は、必ずあらかじめ届けを出すこと。それがないと、中間試験の追試、期末試験は受けられない。

**【教科書】**

一ノ瀬作成のレジメを配布する

**【参考文献】**

講義は配布するレジメに基づいて行う。教科書は用いないが、秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』（有斐閣）は講義理解に非常に役立つので、保有を勧めたい。

科 目 名			
国際経営論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 原 照 明

**【講義概要・学習目標】**

世界経済は一層グローバル化する現環境下、グローバルビジネスや経営は実際にどのように行われているのか、日本企業多国籍化の要因と現状に付き講師の国際経営とビジネスの現場経験を軸に日々変化する国際情勢を交えてその実態を学ぶ。教科書は特に指定せず講師作成の資料（パワーポイント）を中心に進め、日々の新聞およびホームページを参考に企業の取る国際戦略を把握・分析することにより、国際経営実態の理解を目指す。

**【講義計画】**

<国際経営序論>

1. 国際ビジネスと国際経営の歴史
2. 日本の経済成長とその基盤
3. 国際ビジネスの推移と規模

<国際ビジネス環境について>

4. ブレイトンウッズ体制が与えた影響
5. 世界のFTA/EPA及び日本のFTAの現状について
6. 国際経営とリスク・マネジメント

<国際経営戦略>

7. 異文化理解の重要性
8. 原油確保とイスラム原理主義

<国際経営戦略>

9. 海外進出のパターン
10. 直接投資と国際分業
11. グローバル経営戦略
12. 国際マーケティング
13. 組織管理と人事管理

<まとめ>

14. 巨大市場BRICsの最新状況について

**【成績評価の方法】**

期末テスト、出席及び受講態度

**【参考文献】**

伊藤元重著『グローバル経済の本質』ダイヤモンド社  
 久保広正著『貿易入門』日本経済新聞社  
 根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社  
 吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス

科 目 名			
国際経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	モグベル Moghbel ザファル Zafar

**【講義概要・学習目標】**

国際経済を「ヒト・モノ・カネの国境を越えての移動」と規定すると、本講義では「モノの移動」（つまり貿易）を中心においた理論体系の基礎について学ぶ。そこに登場する国際貿易の理論は、過去おおよそ250年にわたり次のような問題を提起しつづけている。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こり、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易をもたらす利益はどのように分配されるのか。自由貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を理論に主眼をおいて解説する。

**【講義計画】**

I. イントロダクション：貿易と文明の歩み

II. 国際貿易の理論

1. リカードの比較生産費説
2. 要素賦存とヘクシャー・オリーオン定理
3. その他の貿易理論

III. 貿易政策

1. 関税効果
2. 保護主義と自由貿易の諸問題
3. 輸入代替と輸出志向

IV. 国際収支と貿易不均衡の調整

1. アブゾーション・アプローチ
2. 弾力性アプローチ
3. J・カーブ効果

V. 外国為替と貿易

1. 外国為替の原理
2. 為替相場制度とその選択

**【成績評価の方法】**

中間試験・期末試験の結果を主とするが、講義中に課す複数回のコメント提出をも参考とする。

**【教科書】**

澤田康幸「基礎コース・国際経済学」 新世社

**【参考文献】**

講義中に適宜指示・資料配布する。

か  
行

科 目 名			
国際社会福祉論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	大 野 順 子

#### 【講義概要・学習目標】

国際的な視点から、主に開発途上国等における福祉に関する具体的な問題（例：障がい者問題、貧困問題、人権問題、開発問題等）を取り上げ、その現状や国の政策、民間による支援活動について理解を深め、共生できる国際社会の実現について考える。

#### 【講義計画】

講義概要（扱うテーマ）

- (1) 国際社会福祉という概念について
- (2) 世界のマイノリティ
  - 子どもの人権
  - 女性（ジェンダー）
  - グローバルゼーションと少数民族  
（エスニックアイデンティティ）
  - 障がい者
  - その他
- (3) 諸外国の福祉に関わる諸政策、及び、法／条約／宣言等
- (4) 国内外における事例研究
  - 教育格差（途上国における初等教育、識字問題）
  - 開発と貧困
  - 人権問題（多様性と統合：diversity and unity）
  - その他
- (5) 国際機関、日本政府、及び、各国支援団体の役割  
国連、開発NGO、政府等のはたらき

※具体的なテーマ・トピック、国、地域については状況に応じて最新のものを扱う予定です。

以上の項目を中心に、(1)～(5)のテーマを関連させながら進めていきます。

#### 【成績評価の方法】

- ①出席（コメントカードの提出、その内容）
  - ②課題レポート
  - ③最終レポート、及び試験
- 以上により、総合的に評価する。

#### 【教科書】

特に指定しない。  
毎時、テーマに沿ったレジュメ、資料を配布する。

#### 【参考文献】

- 『生活と開発』佐藤寛、青山温子編著 日本評論社、2005. 9  
『国際教育開発論 理論と実践』黒田一雄、横関祐見子編 有斐閣、2005. 4  
『グローバル化と社会的「弱者」』日本平和学会編 早稲田大学出版部 2006. 11

その他、適時紹介します。

#### 【備考】

<02～06生>  
共通自由科目として、SW生対象外  
SW生は学科教育科目

科 目 名			
国際政治史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	鈴 木 博 信

#### 【講義概要・学習目標】

○ここでは、国際政治史を「冷戦史」に絞ってとりあげる。すなわち、第2次大戦が終わった1945年からソ連が崩壊・消滅した1991年までの、米ソ両超大国がしのぎを削って対決したが、直接の熱い軍事衝突だけは回避しつづけた「冷戦の時代」では、どんな仕組みで国際関係がうごいていたのか？これを追求するなかで、「いまの世界」をみとすすための確かな足場を固めたい。

#### 【講義計画】

1. 「相互不信と猜疑心がもどってきた」
  - －「第2戦線」－原爆誕生－「封じこめ」政策
  - －「トルーマン・ドクトリン」と「マーシャル・プラン」
  - －チェコスロヴァキアのクーデタ、ユーゴスラヴィアの離反、ベルリン封鎖
  - －朝鮮半島の「熱い戦争」－スターリン去る
2. 「フルシチョフの大ばくち」－世界が息をひそめた13日間
3. 「共産党が所有する国家 対 権力者・金力者が所有する国家」、  
「命令経済 対 市場経済」
4. 「わが道を行こうとする国々、集国の登場」
5. 「相手がベトナム戦争、ウォータージェットともたつく間に、腕力だけは追いついた」
6. 「冷戦の幕引き役 続々登場」－先導したのは2人のポーランド人：ローマ法王と失業中の電気工；つづくはゴルビー、レーガン
7. 「冷戦の勝利者」－だれが、なにが勝ったのか

#### 【成績評価の方法】

- 期末の大レポート－最低2冊以上の文献を使用して－
- 夏休み前に課す小レポート

#### 【教科書】

特定せずに随時、文献を紹介する

#### 【参考文献】

- 松岡完ほか『冷戦史』(同文館出版)、仲晃『バックス・アメリカーナ転向－ジャーナリストのみた現代史』(岩波書店)、アダム・ウラム『膨張と共存－ソヴェト外交史』(鈴木博信訳、全3巻、サイマル出版会)、下斗米伸夫『アジア冷戦史』(中央公論新書)、赤木昭夫『アメリカは何を考えているのか』(岩波ブックレット)  
J. L. GADDIS: The Cold War－A New History－(New York: The Penguin Press, 2005) など

科 目 名			
<b>国際政治事情研究</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 村 昌 廣

**【講義概要・学習目標】**

政治学、社会学、経済学など、社会科学の基礎をよく理解した、3・4年生を念頭に講義を行う。

この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。この講義により、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを事例を示しながら学生に理解させたい。

ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。

**【講義計画】**

1. 総論
  - 1) 国際関係論と地域研究
  - 2) システム論的アプローチ
  - 3) 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
2. 各論
  - 1) 民族紛争
  - 2) 国際テロ・アフガン問題
  - 3) 東アジア
    - (1) 朝鮮民主主義人民共和国
    - (2) 中華人民共和国
    - (3) 日本
3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究

**【成績評価の方法】**

Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成  
 B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける  
 毎回出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

**【教科書】**

松村昌廣『激動する米国覇権』現代図書、2005年。

テストとレポートの参考資料となるので履修者は入手すること。

**【備考】**

<02～05生>  
 共通自由科目として、J生対象外  
 J生は学科教育科目

科 目 名			
<b>国際法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	軽 部 恵 子

**【講義概要・学習目標】**

国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。この講義では国際法の基礎を学びます。

国際法の勉強には世界史の基礎的知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、春学期の国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。国際法と国際機構論の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際問題に関する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種のドキュメンタリー・フィルムやホームページも教材として積極的に使用します。特別テーマの選定には、受講生の希望も取り入れる予定です。

**【講義計画】**

1. 国際法とは何か：「国」と「国際」の意味、合意秩序 他
2. 国際法の歴史：宗教改革、三十年戦争、グロチウス『戦争と平和の法』、フランス革命、ナポレオン戦争、ウィーン体制、赤十字国際委員会、ハーグ平和会議、キリスト教・イスラム教・ユダヤ教 他
3. 国際法の基本原則：「合意は拘束する」、「合意は第三者を害しも益しもせず」、国際法と国内法の関係 他
4. 国際法の法源：条約、慣習国際法 他
5. 国際法の主体：国家、国際機関、人民 他
6. 国家：国家の要件、領域と管轄権、国家責任、国籍の意義 他
7. 条約：交渉、署名、批准、終了、廃棄、無効、留保、承継 他
8. 特別テーマ

**【成績評価の方法】**

学期末試験  
 ※ 教室で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くため、「出席点」にはなりません。

**【教科書】**

- ①『国際条約集2007』有斐閣 2007年
- ②教員作成の資料（配布予定は随時掲示されますので、常に掲示板を見て下さい）

**【参考文献】**

- 国際機構論のページも見て下さい —
- ・国際法学会編『国際関係法辞典』第2版 三省堂 2005年
  - ・横田洋三編『国際法入門』第2版 有斐閣 2005年
  - ・中谷和弘ほか『国際法』有斐閣 2006年
  - ・大沼保昭編『資料で読み解く国際法』第2版 全2巻 東信堂 2002年
  - ・青木裕司『知識ゼロからの現代史入門』幻冬舎 2002年
  - ・池上彰『そうだったのか！アメリカ』集英社 2005年
  - ・池上彰『そうだったのか！現代史』集英社 2000年
  - ・池上彰『そうだったのか！現代史パート2』集英社 2003年
  - ・池上彰『そうだったのか！日本現代史』集英社 2001年
  - ・門奈直樹『現代の戦争報道』岩波書店 2004年
  - ・船本弘毅監修『図説 地図とあらずじて読む聖書』青春出版社 2004年
  - ・高尾利教他『世界の宗教総解説』改訂新版 自由国民社 2004年

**【備考】**

- ①履修登録する前に、教員作成の「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②教科書販売期間終了後、条約集が出版社で在庫切れになることがあります。条約集は毎年改訂されており、受講生が指定された版や出版社以外の条約集を使用することへの配慮はありません。

**【備考】**

<02～07生>  
 共通自由科目として、J生対象外  
 J生は学科教育科目<02～05生>

科 目 名			
<b>国民経済計算論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	桂 昭 政

**【講義概要・学習目標】**

国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、日本経済の動きを理解するうえで不可欠である。本講義では国民経済計算の基礎知識について学習するとともに、わが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも行っていききたいと考えている。なお、理解を深めるためにデータのパソコン処理の実習をできるだけ行っていききたいと考えている。

**【講義計画】**

1. 日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面
2. 日本の経済循環－ストック（資産）の側面

**【成績評価の方法】**

学期末に行う試験結果を主とし、それにほぼ毎回小テストを行い出席状況を加味して判定する。

**【教科書】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

中村洋一『SNA統計入門』（日本経済新聞社）  
 鈴木多加史『日本経済分析（改訂版）』（東洋経済新報社）  
 桂昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）  
 内閣府編『国民経済計算年報』（最新年版）

科 目 名			
<b>コスト・マネジメント</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坂 手 恭 介

**【講義概要・学習目標】**

まず、コストマネジメント手法の全体像を把握し、個別手法の理解に進む。マネジメント手法は経営環境、企業組織、市場特性、財務体質などの影響を強く受けるので、これらに対する理解力が求められる。同時に、会計全般の基礎力も必要になるが、トピックごとに簡単な入門的解説を加えて講義を進める。

※受講者は「原価計算システム」の単位を取得しているか、同等の基礎力を有していることが求められる。

**【講義計画】**

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) コストマネジメントの基礎知識  | (1週)  |
| 2) コストマネジメントと原価計算  | (2週)  |
| 3) 標準原価管理①         | (3週)  |
| 4) 標準原価管理②         | (4週)  |
| 5) 標準原価管理③         | (5週)  |
| 6) CVP分析とコストマネジメント | (6週)  |
| 7) 原価改善 ①          | (7週)  |
| 8) 原価改善 ②          | (8週)  |
| 9) 原価企画            | (9週)  |
| 10) ライフサイクル・コストニング | (10週) |
| 11) ABC            | (11週) |
| 12) ABM            | (12週) |
| 13) 営業費のコストマネジメント  | (13週) |
| 14) フロンティア探訪       | (14週) |

**【成績評価の方法】**

期末テスト100%

**【教科書】**

使用しない。

科 目 名			
コミュニケーション概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	遠 山 淳

**【講義概要・学習目標】**

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。

人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。先年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。イラク戦争もまた同様であった。

氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報化、人間か。

**【講義計画】**

1. 言語の獲得と発達過程
2. 言語的コミュニケーション（1）：言語と思考様式
3. 認知科学としてのコミュニケーション
4. 言語的コミュニケーション（2）：言語と意味
5. 動物のコミュニケーション
6. ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7. メッセージとは何か：解剖とルール
8. 広告のコミュニケーション
9. 「うわさ話」について
10. 説得の技術
11. テレビ・ゲームのコミュニケーション
12. 異文化コミュニケーション

**【成績評価の方法】**

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

**【教科書】**

橋元 良明編著『コミュニケーション学への招待』大修館書店、1997

**【参考文献】**

授業中に紹介する。

科 目 名			
コミュニケーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まず自分が自分をどのように認知しているかが問題になる。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが、身振り、手振りから始まって顔面表情や視線など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら、聞くことの重要性を知らなければならない。

当講義では、個人、対人文脈、そして集団文脈でのコミュニケーションについて、心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論、あるいは社会心理学的コミュニケーション論である

**【講義計画】**

自己概念、知覚過程、自己開示と自己呈示、スピーキングとリスニング、対人相互作用と対人魅力、バーバル／ノンバーバル・コミュニケーションなど、日常の具体的な出来事を取り上げながら、また各種実習によって自己理解をはかりながら、コミュニケーションの基本について考える。さらにコミュニケーションを通してなされるリーダーシップや説得（態度変容）、あるいは小集団における人間関係のダイナミクスについても考える。

あくまでも心理学に軸足を置いたコミュニケーション論あるいは人間関係論である。

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【教科書】**

西川一廉・小牧一裕著 2002 『コミュニケーションプロセス』二瓶社

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
コンピュータ会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	2単位	安 井 一 浩

**【講義概要・学習目標】**

現在では経理作業にコンピュータは欠かせないものとなっています。この講義では経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習します。また単に操作だけではなく、その背景にある会計学、簿記の理論も学習します。さらに必要に応じて表計算ソフト等の活用方法も説明します。最終的には日常的な経理実務ができるようになることを目標とします。なお日本商工会議所簿記検定3級の内容を理解していることを前提とします。

**【講義計画】**

経理用ソフトの各種設定、現金出納帳、預金出納帳、売掛帳の記帳方法、伝票の作成方法を順次説明し実際に作成してもらいます。また講義の中で適宜、複式簿記の原理、帳簿組織の仕組みを説明します。なお講義は例題を中心に進める予定です。

**【成績評価の方法】**

出席回数、講義中の態度、貢献度及び考査を総合的に考慮して評価します。

**【教科書】**

特に使用しない。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	2単位	北 條 仁 志

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成、数値計算等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増え、コンピュータの簡単な操作方法を理解することが必要不可欠な時代となった。

本講義では、パソコンの利用経験が少ない初心者を対象として、コンピュータの基礎的概念およびその操作方法について学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用できるための知識およびスキルを習得することを目標とする。

**【講義計画】**

以下の項目について講義・実習を行う。

1. コンピュータの基礎的概念
2. パソコンの操作方法
3. インターネット（電子メール、WWW）の活用
4. コンピュータリテラシー
5. ワープロによる文書作成
6. 表計算ソフトの基本的操作
7. プレゼンテーションソフトの基本的操作

**【成績評価の方法】**

講義時の課題および出席状況により総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編 『ユーザーズガイド』

**【参考文献】**

よくわかるマスター IC3対策テキスト  
富士通オフィス機器株式会社／著作制作、FOM出版



科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	豊 田 美智子
03	秋学期	2単位	
04	春学期	2単位	
05	秋学期	2単位	
06	春学期	2単位	
07	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

企業に限らず、行政、非営利組織、学校、家庭等における日常生活の中で、コンピュータリテラシー（コンピュータを利用して課題を解決するための基礎的な知識や技能）を持った人材が求められている。コンピュータ普及率がさほど高くない時代においては、企業等の組織においてコンピュータリテラシー教育がなされてきたが、現在では学生時代にそのスキルを身につけておくことが企業等に求められるようになった。加えてそのニーズは、単にExcelやWordを操作できるというレベルではなく、情報を収集し、整理し、表現するところまで求められるようになった。

この講義では、情報収集やExcel&Wordの基本操作を学習しながら、それらを用いた表現力を身につけることを目的としている。加えて、このような表現力を身につけるためには、ストーリー（物語）を作る力も必要となることから、Excel&Wordに加え、PowerPointを学習しながら、ストーリーづくりも体験してもらう予定である。したがって成績評価には、コンピュータリテラシーだけでなく、ストーリー作成への参加度も対象となる。

**【講義計画】**

理解度等に応じて、変更する可能性がある。

第1回：コンピュータの基礎とインターネット

第2回～第5回：Excel

第6回～第9回：Word

第10回～第11回：Word&Excelデータ連携

第12回～第13回：Power Point

**【成績評価の方法】**

出席、レポート、講義時の課題により総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

**【参考文献】**

適宜プリントを配布する。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	春学期	2単位	田 村 剛
09	秋学期	2単位	
10	春学期	2単位	
11	秋学期	2単位	
12	春学期	2単位	
13	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

一昔前であれば、ビジネスなどにおいて、コンピュータを利用できる人間はある程度重宝されたものであるが、最近ではコンピュータの発達に伴い、利用できて当たり前であり、逆にできなければ困るという状況になってきている。

本講義では、コンピュータをほとんど使った経験のない初心者を対象として、コンピュータの基礎を身につけるために、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本操作について学習する。

**【講義計画】**

1. コンピューターの基礎知識
2. コンピューターの基本操作とキーボード練習
3. インターネットによる情報検索
4. 電子メールの利用
5. ワードプロソフト (Word) の基本操作 (文章作成・編集など)
6. 表計算ソフト (Excel) の基本操作 (データ入力・分析方法など)
7. プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作

**【成績評価の方法】**

出席状況、課題やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	春学期	2単位	加 島 智 子
15	秋学期	2単位	
16	春学期	2単位	
17	秋学期	2単位	
18	春学期	2単位	
19	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、日常生活でコンピュータやインターネットを利用して課題を解決するための基礎的な知識や技能を学ぶ。単に文字入力や基本的な操作方法、データや情報の処理方法を学ぶだけでなく、コンピュータの基礎的な動作原理や特性、適用場面の理解を深めた上で、目的に応じて使いこなすことを目的とする。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶ。

**【講義計画】**

- 情報の収集(インターネットを利用した検索)
- コミュニケーションツール(電子メール)
- 情報の操作(表計算プログラムを利用したデータの処理・文書作成)
- 情報の管理(ファイル)
- 情報発信(プレゼンテーション・Webページ作成)

**【成績評価の方法】**

出席状況・授業時の演習と各回の課題・期末課題など

**【教科書】**

・桃山学院大学情報センター(編)「ユーザーズガイド」

**【参考文献】**

村井 純(著), インターネット, 単行本, 岩波新書(1995/12).  
 エクスメディア(著), 超図解mini Word基本操作&テクニック, 単行本, エクスメディア(2005/6/15).  
 エクスメディア(著), 超図解mini Excel基本操作&テクニック, 単行本, エクスメディア(2006/4/5).

**【備考】**

この授業は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者の学生を対象としているので、コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈なだけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
20	春学期	2単位	小 林 利 臣
21	秋学期	2単位	
22	春学期	2単位	
23	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

大学においては、卒業論文を書くにも、講義のレポートを作成するにも、コンピュータの利用が不可欠である。図書館をうまく利用しなければ効果的な学習ができないのと同様に、コンピュータをうまく使いこなせないと実のある大学生活を送ることができない。

就職後も企業においては、新入社員はコンピュータは使えると想定している。

未来の社会は(現在も既に)情報化社会であり、コンピュータを使えないと生活にも支障が出てくる。

本講義では、これらの「基礎(情報リテラシと呼ぶ)を形成」すべく講義(座学)に加えて、インターネットの閲覧・電子メールの送受信・表計算・文書作成などができるよう実習も行う。「講義と実習の比率=50:50」を予定しています(もっとも実習が多い方がよいという人は、他の講座か、町のPCショップでお願いします)。

IT(ツール)の実習も総花的でなく、重要Point中心に進めます。

**【講義計画】**

1. Windowsの基礎、日本語入力(IME)
2. Windowsのファイルシステム
3. Internetの仕組み、WWWを閲覧する
4. 電子メールの仕組み、Webメールで送受信する
5. ネットワーク、メールを転送する
6. 表計算(Excel)の基本的な事項、集計表を作成する
7. Excelで複数表・グラフを作成する
8. Excelでデータベースを作成する
9. 文書作成(Word)の基本的な事項、レポートを作成する
10. Wordで大きな文書を作成する
11. プレゼンテーション(PowerPoint)の基本的な事項
12. 総合演習

**【成績評価の方法】**

講義時の課題・レポート、および期末試験で、評価する。

**【教科書】**

桃山学院大学情報センター編：ユーザーズガイド(2005)

**【参考文献】**

特になし。

**【備考】**

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
24	春学期	2単位	初 瀬 慎 一
25	秋学期	2単位	
26	春学期	2単位	
27	秋学期	2単位	
28	春学期	2単位	
29	秋学期	2単位	
30	春学期	2単位	
31	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおいての必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

**【講義計画】**

1. パーソナルコンピュータの概要
2. コンピュータの基本操作
3. インターネットの活用とセキュリティ
4. 電子メールとネチケット
5. オフィスツール（表計算、ワープロ、プレゼンテーション）の活用
6. その他の情報活用法

**【成績評価の方法】**

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

**【教科書】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
32	春学期	2単位	藤 間 真

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータがグローバルにネットワークで結ばれ、官公庁・企業・学校から家庭まで広く利用される現代では、コンピュータを上手に利用できる人とそうでない人の情報格差は、想像以上に大きいものです。

本講義では、学校生活で必要となるコンピュータ利用の基本を習得していただくとともに、レポート作成や発表に役立つインターネット、電子メール、Word、Excel、PowerPointの基本を説明し、パソコンを使って実際に情報の収集や文書・グラフの作成を実習していただきます。具体的には「授業計画」欄に示した事項を予定していますが、受講生の状況に応じて若干の変更があります。

授業の合間に、ITや経済・社会の動向・ニュースなどについて話をいたします。

**【講義計画】**

1. パソコンの構成とWindowsの基本操作
2. キーボード基本操作、文字入力・文字変換の基礎
3. インターネットの基本操作と検索エンジンの利用方法
4. 電子メールの基本操作と守るべきネチケットとセキュリティ
5. Wordの基本操作と文章作成演習
6. Excelの基本操作と表計算演習
7. Excelのデータ加工とグラフ作成
8. PowerPointの基本操作とプレゼン資料の作成演習

**【成績評価の方法】**

出席を重視します。講義回数の60%以上の出席と数回の課題作成提出による総合評価を行います。

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

**【教科書】**

桃山学院大学計算機センター編集「ユーザーズガイド」とプリント配布

**【参考文献】**

大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康著 講談社現代新書

同 上 「インターネット完全活用編」 同 上

**【備考】**

本講義は、初心者向けの講義ですので、高校等でパソコンに関する実習を履修した人は受講しないでください。

科 目 名			
<b>コンピュータ利用 I</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
33	春学期	2単位	武 本 和 広
34	秋学期	2単位	
35	春学期	2単位	
36	秋学期	2単位	
37	春学期	2単位	
38	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

近年のインターネットの普及と、Windows搭載コンピュータの低価格化は著しい物があります。このため、情報の検索・取得、加工・保存、提示・発信を目的とした、道具としてのコンピュータ利用が必要不可欠となっています。この講義では、「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生さんを対象に、上記のために「最低限必要な」知識とスキルを取得する事を目標とします。

具体的には、コンピュータの構成とその基礎的操作を理解し、講義レポートの作成、その為の情報の取得、電子メールの送受信、取得した情報の処理と可視化、第三者へ提示する為の情報の加工を、身につける事を目標とします。これらのための道具である、Webブラウザ、検索エンジン、電子メール、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトの扱い方を知って貰います。

なお、この授業は「これまでコンピュータを利用した経験のほとんど無い」学生を対象としています。コンピュータ利用に長けた学生さんの受講は、退屈極まる物になるかと思しますのでご遠慮ください。

**【講義計画】**

1. コンピュータの構成
2. コンピュータ操作の基礎
3. インターネットとの付き合い方
4. 電子メールを使った情報の送受信
5. WWWを閲覧する
6. MS-Wordを使った文書作成の基礎
7. MS-Excelを使った図表作成・表計算の基礎
8. MS-PowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基礎

**【成績評価の方法】**

- ・出席を重視した、数回の課題とレポートによる総合評価

**【教科書】**

- ・桃山学院大学情報センター（編）「ユーザーズガイド」（2007年度版）
- ・必要に応じて授業で配布する資料

**【参考文献】**

- ・適宜、授業中に紹介する

**【備考】**

- ・コンピュータ利用の初心者・未経験者を対象としていますので、初心者以上の方の受講は、ご遠慮ください。

科 目 名			
<b>コンピュータ利用 II</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	藤 間 真

**【講義概要・学習目標】**

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

- ・情報センターの施設を用いた講義と実習が主体となる。
- ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピューターにある程度慣れていないとハードな講義となる。
- ・少なくとも自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。
- ・基本的には連絡は電子メールで行う。

**【講義計画】**

- ・具体的な計画は下欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。
- ・ホームページを作ってみる。
- ・プレゼンテーション・ソフト
- ・情報検索の基礎
- ・unixの基礎
- ・オブジェクト指向とJava

**【成績評価の方法】**

実習の提出物を中心に総合的に評価する。

**【教科書】**

講義計画執筆時（2006年12月）現在検討中である。

**【参考文献】**

ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ  
10日でおぼえるJava入門教室 第二版、丸の内とら著、翔泳社

改訂新版 初体験Java 丸の内とら著 技術評論社

**【備考】**

テキストの件も含め、適宜担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) で情報公開を行う。

科 目 名			
<b>財政学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	竹 原 憲 雄

**【講義概要・学習目標】**

いま日本の財政が注目されている。

先進国のなかで、日本の財政赤字は最悪の状態にある。そのために所得税・消費税等の増税が準備されている。

同時に、高齢化社会に向けた福祉や年金、経済成長のための減税など財政の多様な機能が求められている。また経済格差、地方分権や財政の国際化にも直面している。これは現代財政に共通するところであるが、それによって日本の財政は、私達の日常生活や民間の経済活動にいつそう深い関わりをもつようになっている。

もっとも、こうした日本の財政が、単なる興味の対象に終わってしまうならば、その正体は分からない。財政のしくみや経済活動との関係などについて、順序だてて考えてみる必要がある。

そのうえで、2007年度予算を手がかりにしながら、現在の財政がかかえる問題、国民生活への影響、そしてのぞましい姿など日本財政の実体に迫ってみようというのが、この講義のねらいである。

財政という窓からもう一度世の中を見つめ直して、これからの21世紀を展望してもらいたい。

**【講義計画】**

1. 2007年度予算の内容と問題点
2. 現代財政の理論と機能
3. 日本財政の経費構造と主要経費の実態
4. 税金の意義としくみ
5. 国債の現状と課題
6. 財政投融资の機能と新たな展開

**【成績評価の方法】**

講義内容に関するレポートと学期末の試験によって総合評価する。

**【教科書】**

使用しない。

**【参考文献】**

講義の中で紹介する。

科 目 名			
<b>財務諸表論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	全 在 紋

**【講義概要・学習目標】**

講義概要：企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われる。

- 学習目標：① 1年次における商業簿記の学習内容を前提にして、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表のポイントを理解する。  
② 「企業の言語」としての〈会計〉の特性を理解する。

**【講義計画】**

- ① 制度会計論
- ② 貸借対照表論
- ③ 損益計算書論
- ④ キャッシュ・フロー計算書論
- ⑤ 安全性分析
- ⑥ 収益性分析
- ⑦ 成長性分析
- ⑧ 会計言語論
- ⑨ 国際会計論

**【成績評価の方法】**

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価する。また、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者には加点評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価する。

**【教科書】**

全在紋作成のオリジナル・テキスト配布（分売）の予定

**【参考文献】**

全在紋著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

**【備考】**

この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁ずる。

<02～06生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

科 目 名			
<b>産業考古学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

産業考古学は、産業の歴史のなかで生まれ、活用され、そして消費されていった生産財・消費財を、歴史、文化、経済、地理などの各分野の観点から調べ・考えることでその思想を知る学問です。すなわち、既存の学問（産業史、技術史、経済史など）の方法論に準拠して展開される学際的な分野といえます。また、消えてゆきつつある産業遺産をどのように選別・収集・保存・活用するか、という実務的な問題も重要な論点で、博物館学の方法論や知識を駆使する必要があります。

今年度の講義では、前半で産業考古学の目的と現状を解説した後、産業考古学を理解するために必要不可欠な周辺の学問分野を概観します。後半では、産業遺産保護の現状と問題点に焦点を当てて解説します。

**【講義計画】**

※進捗と理解度を勘案して、途中で内容を変更する場合があります。

(以下順不同)

- 01) 産業考古学の目的と定義
- 02) 産業発展の歴史
- 03) 産業構造と産業の進歩
- 04) 技術進歩と産業の発展
- 05) 周辺学問分野の概要 (①～⑧)
- 06) 周辺学問分野と産業考古学のかかわり
- 07) 産業遺産保護の目的と現状
- 08) 日本の産業遺産保護の現状 (①～⑤)
- 09) 各国の産業遺産保護の現状 (①～③)
- 10) 産業考古学の将来と問題点

**【成績評価の方法】**

各学期に、適宜レポート(合計3回程度)を課し、その評価で決定する。

**【教科書】**

講義中に適宜指示する。

**【参考文献】**

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
<b>産業構造論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	義 永 忠 一

**【講義概要・学習目標】**

現代日本の産業をいくつかのテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。これらの講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、その方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。そして講義終盤には、これまで学んできた「産業構造」の変化に対して、実際のビジネスの場面で活躍されておられる企業経営者、特に泉州地域において活躍されている企業経営者の方々に、現状と課題、そして今後の方向性を語っていただきます。

今年度のテーマ

1. 主要産業の動向
2. 産業の新たな動き
3. エネルギーと環境
4. 支援組織
5. 地域経済の動向

**【講義計画】**

- ・総論
- ・貿易

- ・自動車産業
- ・繊維産業
- ・情報産業
- ・金型産業

- ・知的財産権
- ・サブカルチャーから見た日本の産業構造の変化

- ・エネルギー産業(電力)
- ・エネルギー産業(ガス)

- ・公設試験研究所の役割
- ・コンサルタント・シンクタンク業務について

- ・中小企業金融
- ・外食産業
- ・ホテル業
- ・公共交通
- ・生鮮食品

- ・泉州地域において活躍されている企業経営者の講義

**【成績評価の方法】**

1年を数期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらい、それらを総合して評価する。

**【教科書】**

指定しません。

**【参考文献】**

その都度指示します。

**【備考】**

講師の都合で、予定が変更される場合があります。第1回目の講義で配布する日程表を確認してください。

インテグレーション科目

科 目 名			
産業社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

私たちの暮らしを支える経済社会、なかでもその中心に位置する雇用のあり方は、近年、大きく変化しています。それを象徴するのが、成果主義の導入、雇用の多様化、さらにはグローバルスタンダードにもとづく企業統治の再編です。この授業では、講義内容を大きく3つに分け、労働・職業の世界とその変化についての理解を図ります。最初に①企業活動の基底にある労働の管理、モチベーションといった労働をめぐるミクロの問題がこれまでどのように処理、理解されてきたのかを取りあげ、次いで②それとは対極にある社会の捉え方をめぐる議論について、産業社会学をめぐる多様な議論を紹介した上で、階層の固定化問題があらたに提起されている社会階層の問題を検討します。そして、最後に③「日本的」という言葉を冠して説明される日本の企業をめぐる問題を、その評価の変遷、生産システム、雇用慣行、昇進管理といった点に注目することで、考えます。

**【講義計画】**

- 1 企業と組織
- 2 組織の中の労働：管理とモチベーション
- 3 リーダーシップ
- 4 産業社会学論
- 5 産業社会の構造：社会階層を中心として
- 6 日本企業をめぐる評価の変遷
- 7 日本的生産システム
- 8 日本的雇用慣行とその変容
- 9 昇進・競争・能力観
- 10 変容する労働世界

**【成績評価の方法】**

学期末試験の成績で評価します

**【教科書】**

使用しません。ただし、講義内容の概略（レジュメ）を配布します。

**【参考文献】**

講義概要（レジュメ）にて指示します。

科 目 名			
産業心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

バブル経済崩壊後、産業社会、特に働く人々にとっての職場環境は大きく変わった。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、多くの勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化する産業社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と雇用・処遇、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境と、そこで働く人々について、心理学の立場から考える。

**【講義計画】**

勤労者の生きがい、労働時間構造の変化と労働、女性労働・家族・企業社会、働く意欲、人事管理と能力開発、職場の人間関係、産業ストレスとメンタルヘルスなど、いわゆる産業・組織心理学的諸問題について、各種調査結果や今日の出来事を例示しながら講じる。

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【教科書】**

NIP研究会（編） 2000 『仕事とライフスタイルの心理学』 福村出版

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
<b>産業組織論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	田 中 悟

**【講義概要・学習目標】**

産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、企業や産業の組織構造が経済に与える効果について考える。本講義では、ミクロ経済理論を応用することによって、企業や産業の組織構造や企業間の相互依存関係がいかに関業行動に影響を与え、これを通じて経済の成果（パフォーマンス）がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策（産業政策・規制政策・競争政策等）についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。

**【講義計画】**

講義はおおむね下記の章別構成にしたがって行う予定である。

- 序 産業組織論の対象と課題
- 第1章 市場競争の諸形態
- 第2章 企業の組織構造と企業戦略：M&Aの経済理論
- 第3章 独占企業の戦略：価格戦略と非価格戦略
- 第4章 寡占市場における競争と協調
- 第5章 企業の戦略的行動とその効果
- 第6章 イノベーションと産業組織
- 第7章 グローバル化と産業組織
- 第8章 産業をめぐる公共政策の課題と内容

**【成績評価の方法】**

授業中に課す数回の小テストないしは宿題（30%）と定期試験の結果（70%）を総合して評価する。

**【教科書】**

特に指定しない。必要に応じて、授業中に適宜指示する。

**【参考文献】**

1. 長岡貞男・平尾由紀子（1998）『産業組織の経済学』（日本評論社）
2. 浅羽茂（2004）『経営戦略の経済学』（日本評論社）
3. 丸山雅祥（2005）『経営の経済学』（有斐閣）
4. 柳川隆・川濱昇編（2006）『競争の戦略と政策』（有斐閣）
5. 植草益他編（2002）『現代産業組織論』（NTT出版）
6. 後藤晃・鈴木興太郎（1999）『日本の競争政策』（東京大学出版会）
7. Cabral, L. M. B. (2000), Introduction to Industrial Organization, MIT Press.

科 目 名			
<b>自然科学－数学入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	牧 野 丹奈子

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、大学や社会に必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい。

高等学校までに学んだ数学の内容が、人によって大分違っているようである。このことを考慮し、高等学校までの復習も行う。講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。

**【講義計画】**

以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じて調整する。

1. 高等学校までの数学の復習
2. 集合
3. 論理
4. N進数
5. グラフと方程式
6. 場合の数
7. 確率
8. その他

**【成績評価の方法】**

試験および平常点などの総合評価

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

なし



科 目 名			
自然科学－生物学 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解している者はきわめて少ない。

この授業では、進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。その上で、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

**【講義計画】**

ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定

- ・なぜ地球に生物がいるのか
- ・なぜ生物は進化するのか
- ・なぜ性があるのか
- ・なぜ利他的にふるまえるのか
- ・なぜ滅びゆく生物を守るのか

**【成績評価の方法】**

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

- 酒井聡樹ほか『生き物の進化ゲーム』共立出版 1999年  
 桑村哲生 『生命の意味』裳華房 2001年  
 長谷川眞理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書 1999年  
 ワイナー『フィンチの嘴』早川書房 2001年  
 長谷川眞理子『クジャクの雄はなぜ美しい?』紀伊國屋書店 1992年  
 ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店 1991年

科 目 名			
思想－イスラーム			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	今 澤 浩 二

**【講義概要・学習目標】**

混乱を深めるパレスチナ問題やイラク問題をはじめとして、イスラームは、現代の国際情勢を見る上で欠くことのできない要素となっている。イスラームについて理解することは、今や緊急の課題である。

イスラームは単に宗教にとどまらず、信者の日常生活すべてを規定する社会秩序でもある。本講では、イスラームを考える上で特に重要な項目を取り上げて解説し、イスラーム世界への理解を深めることを目的とする。

**【講義計画】**

1. 六信五行
2. 預言者ムハンマド
3. コーランとハディース
4. イスラーム法
5. シーア派とスンナ派
6. イスラームと政治
7. ムスリムの一生
8. ムスリムの一年
9. ムスリムと民間信仰
10. イスラームと日本

**【成績評価の方法】**

出席点（最低20回以上の出席が必要）と学期末試験によって、総合的に評価する。

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

- 東長靖『イスラームのとらえ方』(世界史リブレット15、山川出版)  
 小杉泰『イスラームとは何か』(講談社現代新書)

さ  
行

科 目 名			
<b>思想－諸子百家</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	林 宏 作

**【講義概要・学習目標】**

諸子百家とは、中国の春秋・戦国時代に現れた多くの思想家、またはその学派や学説に対する総称である。この講義では、諸子百家を生んだ時代や社会的背景から、儒・道・墨・名・法など諸家の学説の概要、さらに孔子・孟子・老子・荘子・墨子・韓非子など各学派の代表的思想家について論じ、中国古代思想を明らかにしたい。

**【講義計画】**

1. はじめに  
・ガイダンス ・授業計画について
2. 諸子百家を生んだ社会的背景
3. 諸子百家概説
4. 孔子について
5. 孟子について
6. 荀子について
7. 墨子について
8. 老子について
9. 荘子について
10. 韓非子について

**【成績評価の方法】**

中間試験・学期末の定期試験・毎回授業後のまとめ・授業への出席状況などにより、総合的に評価する。

**【教科書】**

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

**【参考文献】**

参考文献は適時、紹介する。

科 目 名			
<b>視聴覚教育</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	冷 水 啓 子

**【講義概要・学習目標】**

情報社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、衛星放送、ケーブル・テレビ、字幕番組、地上デジタル放送などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。

そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用および PowerPoint によるプレゼンテーション作品の企画・制作）を行う。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

**【講義計画】**

1. はじめに
2. 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か
3. 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの変遷
4. 活字・印刷物の利用（1）：教科書・絵本・マンガの特徴と挿絵の効果
5. 活字・印刷物の利用（2）：新聞とNIE
6. テレビとビデオの利用（1）：その利用形態と社会・教育的影響
7. テレビとビデオの利用（2）：幼児教育番組
8. テレビとビデオの利用（3）：字幕や手話通訳つき番組と文字情報保障
9. コンピュータ・ゲームの利用：子どもの発達と学習への影響
10. コンピュータの教育利用と諸問題
11. プレゼンテーション作品の制作（1）：PowerPointの使い方
12. プレゼンテーション作品の制作（2）：企画と資料収集
13. プレゼンテーション作品の制作（3）：作品を仕上げる
14. 作品の発表と講評

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

**【成績評価の方法】**

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じてレポート課題を与える。学期末に、制作したプレゼンテーション作品および修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

**【教科書】**

教科書は使用しない。

**【参考文献】**

- ・井上智義（編）『視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2』（北大路書房）
- ・桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2007年度版）
- ・無藤 隆（編）『テレビと子どもの発達』（東京大学出版会）
- ・坂元 昂（監）『メディア心理学入門』（学文社）

科 目 名			
<b>実務英語</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	三 宅 亨

**【講義概要・学習目標】**

Globalizationの進む中で、外国人とのコミュニケーションがますます必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように短期間の訪問者への対応だけでなく、今では同僚・友人として、あるいは仕事上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また出張、旅行などでの短期海外訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活を送る日本人が珍しくない時代になってきた。

この講義では、海外へでかけたり、外国人とのビジネス（社交面も含む）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語（English for Business）の諸相を取り上げる。

毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。

また、受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

**【講義計画】**

1. 自己PR
2. 新聞・雑誌の英語
3. 説明書・マニュアル・注意書きなどの読み方
4. 海外生活に必要な英語
5. 実用文の英語
6. 電子メール・手紙文
7. 英文履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる。

**【成績評価の方法】**

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（小試験）と出席（attendance）、講義への参加度（participation）により評価する。社会人への訓練の場であるから、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

**【教科書】**

授業では、できるだけ最新の材料・内容を取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント（handout）を配布する。

**【参考文献】**

授業中に、その都度指示する。

科 目 名			
<b>実務英語</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	三 宅 亨

**【講義概要・学習目標】**

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて、実社会で必要な実用英文を書くことに重点を置く。また、貿易通信文については貿易実務に関する基礎的な知識をも取り上げる。

毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に臨むこと。

受講者には、積極的にTOEICを受験してもらいたい。

**【講義計画】**

基礎

1. ビジネスレターとは
2. 社内メモ
3. 電子メール
4. ビジネス通信文の本体

社交通信文

1. 出張にかかわる文
2. 紹介・招待
3. 祝賀と弔意
4. 社内外への通知文
5. 英文履歴書

貿易通信文

1. 取引関係の創設
2. 売買契約の成立
3. 売買契約の履行

貿易実務の基礎

**【成績評価の方法】**

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（英文提出）と出席（attendance）、講義への参加度（participation）により評価する。社会人への訓練の場であるから、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして6回以上欠席した学生には、それ以降の授業参加を認めない。

**【教科書】**

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

**【参考文献】**

授業中に指示する。

さ  
行

科 目 名			
児童サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	清 水 昭 治

**【講義概要・学習目標】**

この科目は、図書館における“児童サービス論”です。図書館、特に、公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生、中学生までの幅広い本が準備されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を支える児童サービスの重要性を考えます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。

**【講義計画】**

1. オリエンテーション
2. 児童・子供のための図書館はどこにある？
3. 児童・子供のための図書館には何がある？
4. 児童・子供とは何なのか？
5. 本を読むということとは？
6. 児童・子供図書館とは？
7. 児童・子供図書館員とは？
8. 児童・子供図書館の仕事 1
9. 児童・子供図書館の仕事 2
10. 児童・子供図書館の仕事 3
11. 児童・子供の発達と図書館 1
12. 児童・子供の発達と図書館 2
13. 児童・子供の発達と図書館 3
14. これからの児童・子供図書館
15. 試験

**【成績評価の方法】**

レポート、又は、試験に加えて、出席状況、平常成績とで総合評価します。

**【教科書】**

テキストは使用しません。講義と共に、多彩に出版されている子供の本を具体的に、実際に紹介しながら、又、「絵本読み」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義を進めます。

**【参考文献】**

参考文献は講義の中でお知らせします。又、実際の公共図書館の児童室あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

科 目 名			
児童福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 本 眞 一

**【講義概要・学習目標】**

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
- 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
- 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。

**【講義計画】**

- 1 現代社会と児童
  - 1) 人間の成長・発達と児童
  - 2) 家族と児童
  - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
  - 1) 児童福祉理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
  - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
  - 1) 把握方法
  - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
  - 1) 児童福祉法
  - 2) 母子及び寡婦福祉法
  - 3) 母子保健法
  - 4) その他関連法規
- 5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
  - 1) 在宅サービス
  - 2) 施設サービス
- 6 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
  - 1) 地域と住環境の整備
  - 2) 福祉用具
- 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方
- 9 児童に対する相談援助活動
  - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
  - 2) 具体的事例

**【成績評価の方法】**

期末試験（期間内）の結果により評価するが、出席点も加味される。

**【教科書】**

福祉士養成講座編集委員会（編）『社会福祉士養成講座第4巻 児童福祉論』（第3版） 中央法規出版

**【参考文献】**

山縣文治編『子ども家庭福祉』（第3版） ミネルヴァ書房  
松本眞一著『児童福祉論』 相川書房（1998年版）

科 目 名			
児童文学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	藤 森 かよ子

#### 【講義概要・学習目標】

(1) 英米民間伝承童謡を味わう：  
英米文化を理解するために、必ず知っておかねばならないのが、「聖書」と「ウィリアム・シェークスピア」の演劇と「マザー・グース」と総称的に呼ばれる英国の民間伝承童謡です。「童謡」といっても、自然発生的にできたものが多いので、子供向きでも教育的でもありません。現代人から見れば、残酷であるし、猥褻でもあるし、差別的でもあります。わけのわからないナンセンス・ソングもあります。しかし、注意深く考察すると、歴史の中でせいいっぱい生きてきた庶民の、むきだしの心が見えます。映画や、ポップソングや、コマーシャルや新聞の見出しなどに、また文学作品などに、いかにマザー・グースが使われていることか！

(2) 児童文学の政治性を考える：  
19世紀の代表的アメリカの児童文学であるルイザ・メイ・オルコット作『若草物語』の原文Little Women (1868)を読みながら、非政治的に見える児童文学がいかに政治的なものであるか分析・考察します。この作品は、1930年代にも、50年代にも、および1994年にも映画化されました。それらの3つの映画版も鑑賞し、時代によって同じ物語がどう違って映画化されているかに留意します。物語の政治性がより深く理解できるでしょう。

#### 【講義計画】

第1回：受講についてのガイダンス&マザーグースに関する確認

第2回～18回まで：マザー・グースから70編の歌を、指定テキストとビデオを鑑賞しながら、英国の庶民生活の慣習を知る。同時に、英語の韻の種類や、基本的な英詩の形式を学びます。

第19回～27回：Little Women (『若草物語』)

最終回：まとめ

#### 【成績評価の方法】

出席と毎回のコメントペーパーと中間試験と学期末試験から総合的に判断します。

★11月中に中間試験を行います。出題範囲は、マザーグースからです。学期末試験は、Little Womenに関して出題されます。

#### 【教科書】

安藤幸江注：『Nursery Rhymesとビデオで楽しむマザー・グース』（北星堂、1997、1800円）

- ★その他、適宜教材プリントを配布します。
- ★受講者には、70編の唄が録音されたテープを配布します。

#### 【参考文献】

- 北原白秋訳『まがあ・ぐうす』（角川文庫1976）
- 谷川俊太郎訳『マザー・グース』全4巻（講談社1981）
- 平野敬一『マザー・グースの唄』（中公新書1972）
- 渡辺茂編『マザー・グース事典』（北星堂1986）
- 藤野紀男『英文学の中のマザー・グース』（荒竹出版1986）
- 藤野紀男『マザー・グース案内』（大修館書店1987）
- 川端康雄『オーウェルのマザー・グース』（平凡社1998）
- 鶴見 良次『マザー・グースとイギリス近代』（岩波書店2005）

Iona and Peter Opie. ed.,  
The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford Univ. Press, 1997)

- 井上一馬『「若草物語」への旅』（晶文社1999）
- 高田賢一編著『シリーズもっと知りたい名作の世界①若草物語』（ミネルヴァ書房2006）

科 目 名			
社会科学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 澤 健

#### 【講義概要・学習目標】

社会科学には様々な分野がありますが、いずれも社会に存在する問題を解決しようという意図を持って生み出されてきました。この講義では、現在の社会の様々な問題に触れ、それがなぜ生じるのか、どうすれば解決に向かうことができるのか、を考えていきます。

われわれの暮らしている社会は「市場経済」と言われる社会なので、社会の様々な問題は「市場」がもつ特性から説明することができます。市場（それを扱う経済学）をよく知ることで、世の中の諸側面を理解できるという面白さを理解してもらおうことを目標としています。

#### 【講義計画】

講義は2回1セットで行います。1回目にビデオを見てもらい、課題を設定してレポートを書いてもらいます。2回目に、そのテーマと課題についての講義をします。扱うテーマは以下の通りです。

1. 公害問題－環境問題の原点－
2. 環境問題－環境問題はなぜ解決しないのか？－
3. 労働問題①－市場経済における「働く人」の姿－
4. 労働問題②－低賃金が世界に与える影響－
5. 不況①－不況はなぜ起こるのか？－
6. 不況②－不況はどうすれば解決できるのか？－
7. 不況③－不況を克服するために、世の中はどのように変わったのか？－
8. 20世紀の社会とその変化－20世紀の経済システムはどのようにして終わったのか－
9. 21世紀とグローバリゼーション－今、世界に何が起きているのか？－
10. 市民の時代へ－21世紀の私たちの生きる道

#### 【成績評価の方法】

秋学期の試験によって評価します。各テーマについてのレポートは、加点要素として評価します。つまり、レポートを出さなくても減点はしませんが、なるべくマメに出した方が後で楽になります。

#### 【教科書】

用いない。

#### 【参考文献】

ビデオはなるべく面白いものを用意しています。まずは、問題に触れ、それについて自分なりに考えることを目指してください。

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	北 川 紀 男

#### 【講義概要・学習目標】

この講義は、大学でさまざまな学問を志している学生諸君に、社会学という学問の世界を案内しようとするものです。社会学は、われわれ人間の生きざまを研究する学問であり、人間の構成する社会のしくみを見ぬく力を養ってくれます。講義では、社会学の基礎知識を体系的に論ずるのではなく、具体的な人間の行為・社会秩序・全体社会などの問題をとりあげ、社会学に特徴的な分析概念を用いて、できるかぎり平易なことばで解き明かすことに努めたいと考えています。使用する分析概念については、次項の「授業計画」やテキストを参考にしてください。

この講義を通じて、社会学的なものの方見方・考え方を習得すれば、現にわれわれが生きている現実の社会のしくみをより客観的・実証的に理解する能力を身に付けることができると思います。

また、社会学は「方法としての社会学」とも呼ばれ、社会学以外の学問を志している諸君にも、方法論上の重要なヒントを与えてくれるものとなるでしょう。

#### 【講義計画】

講義は原則としてテキストに従って進めますが、実際の講義では、テキストの記載内容以外の問題も扱います。以下に、各時間のテーマを列挙しておきますから参考にして下さい。

##### (I) 行為の分析

- (1) 私からあなたへ、あなたから私へ
- (2) 私が私であること
- (3) 他者への烙印
- (4) 日常のなかの演技
- (5) 選別と排除のメカニズム
- (6) 現実と虚偽のはざま

##### (II) 秩序の解読

- (7) 女であること、男であること
- (8) 私たちをとりまくルール
- (9) 社会のマクロな事象をとらえる
- (10) 社会秩序の不思議さ
- (11) 姿を見せる権力、姿を見せない権力
- (12) 日本人は集団主義的か

##### (III) 社会の構想

- (13) 人はなぜ共同体を求めるとか
- (14) 市民社会は近代の幻想か
- (15) 人が宗教にめざめるとき
- (16) ポストモダン社会はユートピアか

#### 【成績評価の方法】

主に期末テストに基づいて評価するが、出席状況も加味する。また、学習状況を見てレポートを課すこともある。

#### 【教科書】

友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（編）『社会学のエッセンス 一世の中のしくみを見ぬく一』、2002年（有斐閣）（ISBN 4-641-12006-4 C1336）

#### 【参考文献】

北川紀男『文化社会学研究』2004年（八千代出版）  
その他の参考文献については、その都度指示する。

#### 【備考】

S W生は、対象外

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	宮 本 孝 二

#### 【講義概要・学習目標】

この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となろう。講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学出題基準に対応して進めるが、社会福祉学科以外の学部学科の皆さんにも受講を勧めたい。

#### 【講義計画】

- 1 近代・現代の社会変動
- 2 社会意識と社会的性格
- 3 人口構造と生活構造
- 4 科学技術と環境問題
- 5 情報化社会とマスコミ
- 6 階級・階層
- 7 組織集団
- 8 職業・労働・専門職集団
- 9 家族の構造と機能
- 10 都市化と地域社会
- 11 社会問題と社会運動
- 12 逸脱問題と統制
- 13 まとめと補足

以上の内容を順次解説していく。

#### 【成績評価の方法】

学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

#### 【教科書】

特に使用しない。配布資料によって講義を進める。

#### 【参考文献】

その都度必要に応じて紹介する。

科 目 名			
<b>社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	石 田 あゆう

**【講義概要・学習目標】**

近代から現代にかけて生じたコミュニケーションの変容は、現代社会をどのように特徴づけているのか。

現代へといたるコミュニケーションの歴史的变化を紹介しつつ、「近代社会論」「消費社会論」「リスク社会論」等それぞれの「現代」社会論が着目する人間の相互行為と、そこからみえる社会の姿について講義する。

身近な人間関係から、普段はあまり意識されない今日の文化現象を支えるコミュニケーションまで、幅広いテーマを取りあげたい。

**【講義計画】**

1. 講義ガイダンス
2. 社会学の登場
3. 都市と環境
4. 「子供」の誕生
5. 知識人からプロフェッショナルへ
6. 流行の理論
7. ショッピングの楽しみ
8. 写真と芸術
9. 恋愛と家族
10. 就職面接
11. 新聞を読む、テレビを観る
12. 討議と合意
13. メディア論とコミュニケーション論
14. 全体のまとめ

**【成績評価の方法】**

平常点：5%・・・講義内容についてコメントを求めることがある。

期末レポート試験・・・95%

**【教科書】**

特に指定しない。適宜紹介する。

**【参考文献】**

- 中島純一『メディアと流行の心理』（金子書房、1998）  
 U. ベック『危険社会』（法政大学出版会）

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	木 下 栄 二

**【講義概要・学習目標】**

本講義では、社会学の基礎概念および基本的な分析視角について学習する。個人の心理を超えて存在する社会なるものを、体系化された法律に縛られることなく、お金や就職にも（あまり）こだわらないで捉える社会学の基本的な枠組みを習得することが目標となる。

講義では、おもに社会学の歴史（これが近現代史とパラレルであることを理解してい欲しい）について数回触れた後、地位-役割論を中心に個人と社会の接点、そして社会学的な社会分析の方法論について概観したい。そして、後半は、準拠集団論、潜在機能、社会的性格、権力と権威、支配などの基礎概念についてできるだけ身近な話題と関連させながら学習していきたいと考えている。

**【講義計画】**

以下のように予定しています。

1. 社会学へようこそ：社会学はこんなこともやる！あんなこともできる！ という例を紹介して、社会学の面白さ、多様性、奥の深さをちょっとだけ・・・。
2. 社会学の巨人達：人に歴史があるように学問にも歴史がある。社会学を作ってきた先輩達について少しは知っておこう（おまけに近現代史の復習もね）。
3. 地位-役割論：男（女）といってもいろんな人がいる。なのに「男（女）のくせに！」なんて言い方はどうしてきものだろうか？ここにも個人と社会の接点が見え隠れ。個人と社会をつなぐもの、そして社会学的分析の基本としての地位-役割論を学習しよう。
4. 現代の社会のトレンドと社会学の基礎概念：「気になるのは誰ですか？」（準拠集団論）、「友達が多いほど単位も取りやすい（？）」（潜在機能、または社会関係資本ってやつかな？）などなど、社会学の基礎概念を、できるだけ身近な話題から学んでいきたいと思います。

**【成績評価の方法】**

学期末試験（約70%）、出席点（約10%）、小テスト・小レポート（約20%）の配点を予定しています。詳細は最初の授業で説明します。

**【教科書】**

指定しません。随時プリントを配布します。

**【参考文献】**

- パオロ・マッツアリーノ『反社会学講座』（イーストプレス、2004）  
 森下・君塚・宮本『パラドックスの社会学』（新曜社、1998）  
 川崎・藤村（編）『社会学の宇宙』（恒星社厚生閣、1992）  
 高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書、1979）

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	鈴木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の修得によってそれが見えてくる。だがそのためには、なによりも現実社会への関心を広げ高めることが大切だ。

そこで講義では、前半・第Ⅰ部において、現代日本社会の現状と問題につき、総論的にも各論的にも資料を使って講じ、後半・第Ⅱ部で、社会学の基礎概念をいくつか取りあげて理論的な解説をする。

第Ⅰ部と第Ⅱ部を通じて、受講者が、社会的現実にたいする社会的な関心と認識を高め、理論的感覚をも養うことにより、社会学の学習・研究に入門することができるようにすることが、本講の学習目標である。

**【講義計画】**

序、社会学の視点

第Ⅰ部 現代日本社会の現状と問題

§ 1. 世界システム論の視野と現代日本

§ 2 以降、日本社会の総体把握の視点、人口構成、家族、労働、社会保障、教育、治安、等の諸分野の現状と問題を解明する。

第Ⅱ部 基礎概念

§ 1. 社会と人間

§ 2. 人間の社会化

§ 3. 行為と文化・社会規範

§ 4. 組織と集団

§ 5. 国家と市民社会

結語 現代社会と社会学

**【成績評価の方法】**

(1) 試験の成績、(2) レポートの成績、(3) 出席状態等を総合して評価する。

**【教科書】**

使用しない。講義プリントおよび資料を講義中に配付する。

**【参考文献】**

- 見田宗介『社会学入門』岩波新書
- 山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房
- 関口裕子・他『家族と結婚の歴史』森話社
- ロナルド・ドーア『働くということ』中公新書
- エスピン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
- その他は講義で紹介するが、浜島・他編『社会学小辞典』有斐閣、等の専門小辞典を各自所持することが望ましい。

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	竹内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

目標は、社会学の言葉や視点を使って、社会をあるひとまとまりのものとして掴み、自分や他人をその社会的な文脈に位置づけ理解できるようになることにある。講義概要としては、近代社会のイメージと構造、近代社会の発展、そして現代化された社会の諸相を考えてみたい。学習の中で大切にしたいのは、第一に、世界や社会や時代の変化に新鮮な驚きを感じ取ること。第二に、このこととつながっているが、社会とともに流動している自分や身の回りの人々が、実はとても謎めいた存在だということを「発見」する力を身につけること。第三に、自分と他人に深い関心をもつこと。自分を知るためには社会（他人）をよく見つめる必要があるが、また、社会を知ろうとすれば、自分を突き放してやるのが大切という点。第四に、こういったことを君の経験によって、時には痛覚や喜びを伴って、味わってほしいこと。

私は、授業の中で、皆さんとともに、驚いたり、謎を提出したり、他人を前よりもより深く理解できるようになったり、自己の経験の意味を確認できるようになればよいあと、期待している。

**【講義計画】**

<前半>時間や空間、時代や国民社会を変えてみると、人間の生活や価値観、思考様式、行動様式が変わること、とても多様であることがわかる。北欧と日本、1960年代と現在、男性と女性、共同体と市民社会、バラバラな個人と連帯する個人などを扱う。これによって、人間や社会の構造と変化をつかむ。

<後半>現代社会の動向や私たちが直面するいろいろな社会問題を扱う。社会の動向や問題がなぜ、どういう理由で発生するか、どうやったら解決できるかなどを探る。現代の貧困、働き方、失業、ニート、近代化、階級と階層（格差社会）などを扱う。

**【成績評価の方法】**

出席、試験成績、レポートなどから総合的に評価する。

**【教科書】**

とくに指定しない

**【参考文献】**

- 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫
- 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫
- 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
- 水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波新書
- 熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波新書
- 森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書
- 福島清彦『ヨーロッパ型資本主義』講談社現代新書
- 竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房
- ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房



科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期集中	4単位	石 田 あゆう

**【講義概要・学習目標】**

社会学から見た現代社会の問題について講義する。一回生向け講義なので、まず「社会学」とはどのような考え方をしている学問なのかに興味を持ってもらいたい。学生の身近にある家族、(将来の)仕事、教育、メディアの4つテーマで社会学を紹介してみたい。それぞれのテーマが現代社会において抱えている問題とは何であるのかを明確化し、どのような議論が社会学ではなされているのかを理解する。

**【講義計画】**

1. ガイダンス
- 2～4. 現代社会と家族 (現在の状況、問題の所在、社会学的見方の3回に分けて講義)
- 5～7. 現代社会と仕事 (同上)
- 8～10. 現代社会と教育 (同上)
- 11～13. 現代社会とメディア (同上)
14. まとめ

**【成績評価の方法】**

平常点：5%・・・講義内容についてコメントを求めることがある。  
 期末レポート試験・・・95%

**【教科書】**

特に指定しない。適宜紹介する。

**【参考文献】**

適宜紹介する。

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4単位	鈴 木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の修得によってそれが見えてくる。だがそのためには、なによりも現実社会への関心を広げ高めることが大切だ。

そこで講義では、前半・第I部において、現代日本社会の現状と問題につき、総論的にも各論的にも資料を使って講じ、後半・第II部で、社会学の基礎概念をいくつか取りあげて理論的な解説をする。

第I部と第II部を通じて、受講者が、社会的現実にたいする社会的な関心と認識を高め、理論的感覚をも養うことにより、社会学の学習・研究に入門することができるようにすることが、本講の学習目標である。

**【講義計画】**

- 序. 社会学の視点
- 第I部 現代日本社会の現状と問題
- § 1. 世界システム論の視野と現代日本
- § 2以降、日本社会の総体把握の視点、人口構成、家族、労働、社会保障、教育、治安、等の諸分野の現状と問題を解明する。
- 第II部 基礎概念
- § 1. 社会と人間
- § 2. 人間の社会化
- § 3. 行為と文化・社会規範
- § 4. 組織と集団
- § 5. 国家と市民社会
- 結語 現代社会と社会学

**【成績評価の方法】**

- (1) 試験の成績、(2) レポートの成績、(3) 出席状態等を総合して評価する。

**【教科書】**

使用しない。講義プリントおよび資料を講義中に配付する。

**【参考文献】**

- 見田宗介『社会学入門』岩波新書
- 山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房
- 関口裕子・他『家族と結婚の歴史』森話社
- ロナルド・ドーア『働くということ』中公新書
- エスピン・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
- その他は講義で紹介するが、浜島・他編『社会学小辞典』有斐閣、等の専門小辞典を各自所持することが望ましい。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学原論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	宮 本 孝 二

**【講義概要・学習目標】**

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

**【講義計画】**

- 1 社会学原論とは何か
  - 2 人間の特性：意味づけと資源動員
  - 3 社会の形成：人間社会と現代社会
  - 4 相互行為の4つの側面
  - 5 コミュニケーションの社会理論
  - 6 サンクションの社会理論
  - 7 エクスチェンジの社会理論
  - 8 コンフリクトの社会理論
  - 9 構造という視点
  - 10 変動という視点
  - 11 近代化と現代社会論
  - 12 社会理論の諸相：現代の社会理論家たち
- 以上の内容を、順次約25回で講義する

**【成績評価の方法】**

学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）によって評価する。

**【教科書】**

特に使用しない。配布資料に基づいて講義を進める。

**【参考文献】**

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1998年、八千代出版）  
新睦人編『現代社会理論のあゆみ』（2006年、有斐閣）

**【備考】**

<02～07生>

共通自由科目として、SS生対象外  
SS生は学科教育科目

科 目 名			
<b>社会学史</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を市民社会に焦点を当てて分析する学問である。社会学は世界資本主義とともに発展してきた。社会学は、18,19世紀に「北」（先進国）側の近代化とその再編過程で生まれた。20世紀になると欧と米を中心に社会学が制度化され、日本もここに組み込まれていった。この過程で欧米および日本の近代化の特質に対応した学問が発展した。その一方で冷戦期には「南」やジェンダーの視点も学問内部へ送り込まれ、社会学の多様化がすすんだ。さて21世紀には、世界は再び大きな変動の中にある。「北」の「豊かな社会」は南北問題とグローバル化の影響で二極化し、新しい貧困が生まれている。社会学は、良かれ悪しかれ、社会問題への反応形態である。自称社会学者だけでなく、非職業的社会学者もまじえて、世界資本主義の衝撃が社会学にどのような影響を与え、学問がこれにいかにかに挑戦したかを考える。

**【講義計画】**

- (1) 18世紀ヨーロッパの社会科学
- (2) スミスの市民社会論
- (3) 19世紀社会学の原型
- (4) マルクスの社会学
- (5) 福沢諭吉と日本近代化
- (5) 19世紀末から20世紀初頭の社会と個人
- (6) 自由主義の再編と社会学
- (7) デュルケムと連帯
- (8) 戦時下日本の社会科学と市民社会概念
- (9) 戦後日本と近代化論の喚起力の衰退
- (10) 近代化と学校の病理
- (11) 「私」イデオロギーと個人の可能性
- (12) 近代家族の二つのイメージ
- (13) 近代家族理論の対抗
- (14) シティズンシップの発展と福祉国家
- (15) 反福祉国家とネオ・リベラリズム
- (16) フランクフルト学派の主題と変遷
- (17) 公共圏の社会学
- (18) 南北問題と世界システム論
- (19) 現代世界と社会権
- (20) 北欧型社会とアメリカ型社会
- (21) 21世紀の新しい社会理論

**【成績評価の方法】**

年度末試験で評価するが、授業の進行次第でレポートを課す場合がある。

**【参考文献】**

T・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社  
J・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』未来社  
竹内真澄、鈴木富久他著『人間再生の社会理論』創風社  
内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書  
アクセル・ホネット、竹内真澄他訳『正義の他者』法政大学出版局  
ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科 目 名			
<b>社会学特講－釜ヶ崎と人権</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	小 柳 伸 顕

**【講義概要・学習目標】**

大阪の寄せ場釜ヶ崎（行政名あいりん地区）は、日本社会の縮図とも言えます。1903年第5回国勸業博覧会のため、スラム長町から多くの人が釜ヶ崎に強制移住させられました。以来100年余が過ぎました。戦前は貧しい人たちの地域（スラム）として、戦後は日雇労働者の町として、近年は、高齢者、野宿生活者（ホームレス）の町として生き続けてきました。100年の歴史をたどる中で、地域の労働、生活がどのように保障されているか、具体的な出来事を通して検証します。

**【講義計画】**

- I. スラムの形成
  1. 強制移住－第5回国勸業博覧会
  2. 米騒動と釜ヶ崎（1918）
- II. スラムから寄せ場へ
  1. 釜ヶ崎暴動（1961の意味）
  2. あいりん対策
  3. 裁判を通して見えてくる寄せ場
- III. 寄せ場とホームレス特措法
- IV. まとめ－釜ヶ崎と人権

**【成績評価の方法】**

出席・授業中に出す小レポート、期末テスト

**【教科書】**

特になし。必要な資料は授業ごとに準備します。

**【参考文献】**

- ・釜ヶ崎資料センター編『釜ヶ崎－歴史と現在』（三一書房）
- ・ありむら潜『ホームレス問題入門』（マンガ）（かもがわ出版）
- ・平井正治『無縁声声－日本資本主義残酷史』（藤原書房）

科 目 名			
<b>社会学特講－死生観の社会心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	渡 部 美穂子

**【講義概要・学習目標】**

脳死臓器移植や終末期医療など、死に関わる社会問題は現代における重要なテーマのひとつであるにも関わらず、私たちが日常生活で死について深く考えることはあまりない。また、死の問題を考える上で日本人の宗教性は重要な側面であるが、「宗教」という言葉に対して否定的なイメージをもつ人は少なくないであろう。

この講義では、受講生のみなさんに「自分自身の死」だけでなく、「近しい他者の死」の問題についても考えてもらうことを通して、少子高齢化が進む現代社会が抱えるさまざまな問題についての考察を深めてもらうことを目的としている。そのため、映像なども用いて死に直面する家族などの姿にも接してもらうつもりである。

**【講義計画】**

- ・死生観の社会心理学的研究
- ・現代における死の問題（脳死臓器移植、自殺など）
- ・死と宗教観（日本人の宗教性）
- ・葬送儀礼と来世信仰
- ・グリーフ・ケア
- ・自己と他者の死への態度
- ・死への態度の規定因

（注）上記は講義順序を示すものではない

**【成績評価の方法】**

時折小テストを行ったり、講義中に内容に関連するアンケート調査を実施したりして、それを出席点とする。また、テーマ内容に沿った参考文献を読んでレポートを作成してもらう予定である（詳細は講義中に説明する）。

**【教科書】**

特に指定しない

**【参考文献】**

講義内容に応じて適宜指示する

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学特講－キャリアカウンセリング入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	西 川 桜 子

**【講義概要・学習目標】**

**【講義計画】**

職業により、毎日の生活の仕方、人間関係、生活環境、時には余暇活動などの仕事以外の活動まで異なります。ですから、職業選択は生き方の選択でもあります。本科目では、“キャリア”を職業や職歴だけでなく、家庭内での仕事や地域活動、ボランティア、趣味 活動なども含めた幅広い概念として捉え、個人の特性を活かした職業や生き方の選択を支援する“キャリア カウンセリング”の基礎を解説します。

**【学習目標】**

受講生の皆さんがキャリア カウンセリングの歴史、(代表的)理論、基本的なプロセス(進め方)とテクニック(技巧)について理解することを目標とします。本科目でキャリアの選択に影響する様々な要因について学習することは、受講生の皆さんの自己理解を深める機会にもなると思います。

**【講義計画】**

(\*一部変更する場合があります)

- 1 週目：授業計画、課題、評価方法の説明 カウンセリングとは？
- 2 週目：“キャリア”が意味すること キャリアカウンセリングとは？  
キャリア カウンセリングの歴史
- 3 週目：キャリア カウンセリングの理論Ⅰ－特性因子 (Trait-and-Factor) 理論 & 発達学的 (Developmental) 理論
- 4 週目：キャリア カウンセリングの理論Ⅱ－類型学的 (Typology) 理論
- 5 週目：キャリア カウンセリングの理論Ⅲ－社会学習 (Social Learning) 理論 & A Needs Approach
- 6 週目：キャリア カウンセリングのプロセス (進め方) ケーススタディ (事例)
- 7 週目：第1ステップ 現状把握・自己分析 “Who am I?”  
セルフ アセスメントⅠ－興味
- 8 週目：セルフ アセスメントⅡ－性格
- 9 週目：セルフ アセスメントⅢ－価値観, 動機, & 使命感
- 10週目：セルフ アセスメントⅣ－技術・技能, 能力, 社会的役割, 環境, 経験, & (心理的・社会的) 必要
- 11週目：セルフ アセスメントⅤ－キャリアの壁
- 12週目：第2ステップ 目標設定 “Where am I going?”
- 13週目：第3ステップ 目標達成 “How do I get there?”
- 14週目：復習 ケーススタディ (事例)

**【成績評価の方法】**

キャリア インタビュー レポート  
論述式期末テスト (ケース スタディ・事例の応用)

**【教科書】**

『キャリアカウンセリング 21世紀カウンセリング叢書』(宮城まり子著)  
駿河台出版社 (ISBN: 4-411-00343-0)  
(\*その他、セルフアセスメントのエクササイズなどのプリントを授業中に配布します。)

科 目 名			
<b>社会科・公民科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	飯 島 敏 文

**【講義概要・学習目標】**

本講義は中学校社会科及び高等学校公民科授業を実践できる基本的知識と能力を身につけることを目標とするものです。

社会科学・人文科学の諸領域を習得しただけでは授業実践はできません。生徒の発達段階や生活経験・学習経験を踏まえ、もっとも効果が期待できる教材を選択し、授業過程において生徒にどのような学習活動を行わせるのかということ具体的に構想しなければなりません。そこには常に生徒の公民的資質の育成という中核的な目標が位置づけられていなければなりません。

社会科・公民科という教科に対する誤解をとき、社会科・公民科という教科が何のために設けられているのかという原点に立ち返って授業実践を考えていただきたいと思います。情報化社会やニューメディアに対応したこれからの社会科・公民科授業を考えていきましょう。それは皆さんご自身が現代社会を生き抜く力を身につけることにもつながるものです。

**【講義計画】**

本講義は通年の講義ですが、主として前期には中学校社会科に関する内容を扱い、後期に高等学校公民科に関する内容を扱うことを予定しています。

前期は、昭和22年の社会科成立期から今日に至るまでの社会科を概観し、とくに成立期社会科におけるカリキュラム構成と授業実践について考察します。現代の社会科授業実践を考えるために有効な視点を可能な限り具体的な形で紹介することによって、授業を実践するとはいかなることであるかを解説します。

後期は、高等学校公民科の特徴と公民科に含まれる諸科目の特徴とその実践的課題について解説します。

前期・後期ともに受講生の皆さんが社会科授業及び公民科授業の学習指導計画を作成することができるように手ほどきをいたします。常に社会の姿を「授業」のレベルで考えることができるような視点を提供していく予定です。

なお、コンピュータ教室を活用し新しいメディアに親しむとともに、それを授業実践構想に生かしていくことを重視しています。

**【成績評価の方法】**

出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。(前期・後期共レポート試験があります)

**【教科書】**

テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。  
『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』  
『中学校学習指導要領解説 社会編』  
『高等学校学習指導要領解説 公民編』

**【参考文献】**

講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしません。

科 目 名

社会科・公民科教育法

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。その中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。日本は経済低迷の最中で、国民は漠とした不安の中にいる。また、地球の幾つかの地域では紛争中であり、日本もそれには無関係ではいられない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員の立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせさせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の目的と役割、教育課程の変遷、教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、模擬授業などを取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

- ・はじめに一講義概要など
- ・どんな社会に生きてるのか
- ・教員の現状
- ・国旗・国歌問題と社会科・公民科教育
- ・戦後の社会科・公民科教育
- ・社会科・公民科教育と社会認識・態度
- ・社会科指導要領の内容と授業
- ・公民科の目標
- ・公民の概念と公民科教育
- ・公民科指導要領の内容と授業
- ・模擬授業の準備と学習指導案の作成
- ・模擬授業による授業研究
- ・まとめ
- ・テスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名

社会科・地歴科教育法

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 崎 充 彦

【講義概要・学習目標】

地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらおう。

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、「模擬授業を中心とした演習形式」とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じてであろう。その点、留意の上、登録履修されたい。

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

【講義計画】

開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、原則として、毎回一人に模擬授業を行ってもらう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料（教科書その他のコピーなど）を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。  
＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。  
＝一回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。
5. 当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを当日ないし、翌週に提出する。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

【成績評価の方法】

模擬授業の担当は、単位認定のための絶対的前提条件である。

学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、出席回数、これらにより総合的に評価する。定期試験は行わない。

模擬授業の担当予定日に正当な理由無く欠席した者は、その時点で「不可」とする。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版

科 目 名			
<b>社会科・地歴科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	野 尻 亘

**【講義概要・学習目標】**

学校教育現場では、いじめ・不登校・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況のなかで、中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業はどのようにあるべきか。

単なる知識や技能の伝達にとどまらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、解説をすることにする。

**【講義計画】**

1. 学校における教科教育 陶冶と訓育
2. 社会科・地理歴史科の目標
3. 社会科・地理歴史科のカリキュラム構成
4. 教育実習と授業実践
5. 授業指導案の作成と成績評価
6. 社会科・地理歴史科と人権学習
7. 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育

**【成績評価の方法】**

指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートとして提出すること。また履修者全員が授業時間中に模擬授業を行うこと。大阪府教育委員会の行政指導により、これらのことを単位認定の条件とする。

**【教科書】**

文部科学省『中学学習指導要領解説 社会編』大阪書籍  
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版

**【参考文献】**

井原政純『社会科・地歴科・公民科基礎論』多賀出版  
 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書

## 「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

さ  
行

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。ここでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を口頭で報告したりレポート・論文にまとめたりするなどの基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の4つの項目である。

- ① テーマの発見 : 社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。現実の中に問題を発見する方法がまず学ばねばならない。
- ② 情報収集 : 特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における参与観察やインタビューやインターネットなどもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する法について学ぶ。
- ③ 情報解説 : 収集された多種多様な情報は解説され整理されねばならない。たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。
- ④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成 : 解説された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されねばならない。ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることなどを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での4年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解説・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目には違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称 : 社会学科基礎演習  
対 象 : 社会学部社会学科1回生  
形 式 : ゼミナール  
定 員 : 30名

## 「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	巖 圭介	環境問題を考える	189
02	岩田 考	〈大学で学ぶ〉とはどういうことか	189
03	上田 修	みんなで考える日本社会の問題	190
04	過 放	日本におけるエスニック文化	190
05	北川 紀男	新聞・雑誌の記事から社会学の課題を探ろう	191
06	木下 栄二	身の回りからの社会学	191
07	鈴木 富久	英語で学ぶ社会学——社会の変動と人間の変容	192
08	竹内 真澄	歴史の中の現代	192
09	竹中 英紀	大学での学習と社会学研究の基礎	193
10	西川 一廉	青年の心理を考える	193
11	松永 俊男	科学と社会	193
12	石田あゆう	大学での基礎学習：本の読み方から、論文・レポート作成まで	193

## 「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	ページ
01	大野 順子	195
02	小柳 伸顕	195
03	棒 堅 二	196
04	清水 夏樹	196
05	畠中 宗一	197
06	矢嶋 巖	197
07	山内 乾史	198
08	渡部 美穂子	198



科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

この演習では、環境問題を材料にして、大学生活に必要な基礎技術「読む、調べる、考える、書く、伝える」を身につけてもらう。

インターネットの普及により、資料を集めるのは簡単になった。とくに環境問題に関する情報はちまたにあふれている。その資料を集めてどうするか、そこからどうやって重要な情報をつかみ、それをどう人に伝えるか。これらのことを身につけてもらうのがこの演習の目的である。

**【講義計画】**

具体的なテーマについて論文を書き発表するまでのプロセスを体験しながら、各ステップで気をつけるべきことを学んでもらう。

- ・資料収集演習
- ・討論演習
- ・レポート執筆演習
- ・プレゼンテーション演習

**【成績評価の方法】**

出席、報告、参加度、レポートなどを総合的に判断して評価する。欠席5回で除籍する。

**【教科書】**

なし

**【参考文献】**

学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版 2002年  
 荒木晶子ほか『自己表現力の教室』情報センター出版局 2000年  
 戸田山和久『論文の教室』NHKブックス 2002年

**【備考】**

テーマ：環境問題を考える

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

大学で学ぶための基礎的な力を養うことが本演習の目的であり、サブテーマは「<大学で学ぶ>とはどういうことか」である。以下のような2つの学習を通じて、「聴く」〈読む〉〈調べる〉〈整理する〉〈まとめる〉〈書く〉〈表現する〉〈伝える〉、そして〈考える〉という9つの力を身につけることを目標とします。

第一に、『よくわかる学びの技法』をテキストとして、講義の受け方、本の読み方、情報収集の仕方、レポートの書き方、基本的なコンピュータ・ソフトの使い方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。第二に、グループに分かれ、特定の問題について、文献を調べ、資料を収集し、考察を行い、口頭発表およびレポートの作成を行います。

**【講義計画】**

以下のような内容を予定していますが、詳細については初回に説明します。

- ・自己紹介と他者紹介
- ・講義の受け方
- ・本の読み方と要約の仕方
- ・情報検索の仕方
- ・コンピュータ・ソフトの使い方
- ・プレゼンテーションの仕方
- ・レジュメの作成と発表
- ・レポートの作成

**【成績評価の方法】**

出席状況、授業でのプレゼンテーション、討論への参加状況、レポート等によって総合的に評価します。

**【教科書】**

田中共子編 2003『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

学習技術研究会編著 2002『知へのステップー大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版  
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

**【備考】**

テーマ：<大学で学ぶ>とはどういうことか

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心によって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心に任せるが、採り上げられた問題・・・例えば、校則・いじめ・学力低下に典型される教育問題、家族の変容、ニート問題に見られる若者の就職問題・・・が社会的にいかにかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスを通して考える。

**【講義計画】**

- 1 班の構成
  - ①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化（班編成）をおこない、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
- 2 第1次班別報告
 

若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から1度に1テーマずつ報告を受け、小グループ（3～4グループ）に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。
- 3 第2次班別報告
 

第1次班別報告が一巡した後、再び各自の問題関心によって班別構成を再編成し（どのようにおこなうかは演習参加者の希望を聞いた上で決める）、班別報告の2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって、徐々にではあれ、多人数のなかでも発言できる力をつけていく。
- 4 レポートの提出
 

演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

**【成績評価の方法】**

- ①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合的に勘案して評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考文献】**

その都度、指示する。

**【備考】**

テーマ：みんなで考える日本社会の問題

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	過 放

**【講義概要・学習目標】**

サブタイトル：日本におけるエスニック文化  
 わたくしたちは暮らしのなかで日々外国との交流や外国文化の影響を受けている。また町で世界各地から来ている外国人にたびたび出会う機会もあるだろう。この大阪においてもきっとそのようなエスニックな事象を見出したり、体験したりすることがあると考えられる。今年度の演習は、このようなエスニック文化を観察し考える場である。そのための基本的な作業として、問題の提起、資料の収集と学習、レジュメの作成、発表の仕方、現地調査（またはインタビュー）及びレポートの書き方などを実際に行って日本におけるエスニック文化を考察してみる。

**【講義計画】**

- <春学期>
- ・パソコン・図書館の使い方、文献検索の方法
  - ・各自の問題関心の明確化
  - ・文献の読み方
  - ・レジュメの作り方
  - ・報告と討論の仕方
  - ・社会観察・調査の仕方
  - ・夏休みのレポートの課題

<秋学期>

- ・夏休みのレポートの報告と討論
- ・テキストの発表と討論
- ・最終レポートの報告

**【成績評価の方法】**

出席状況、演習態度、レポートおよび討論などにより総合的に評価する。

**【教科書】**

未定

**【参考文献】**

授業時に適宜紹介をする。

**【備考】**

テーマ：日本におけるエスニック文化

科 目 名

社会学科基礎演習

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	北 川 紀 男

【講義概要・学習目標】

演習テーマ：「新聞・雑誌の記事から社会学の研究課題を探ろう」

自己の生活する社会的現実を的確に把握することによって、はじめて学問に対する明確な問題意識をもつことができる。とりわけ社会学を志す者にとっては、しっかりと問題意識を抱くことは極めて重要であり、でなければ学問に対する興味も出てこないはずである。そのためには、先ず社会に関心をもたなければならないが、それには今の自分の生きざまを内省してみることである。世の中に関心を向けなければ、問題意識を抱きようがない。かくすることによって、今の社会で何が重要で、それをどう問題としなければならないかという意識が出てくるのである。

従って、演習では、社会学の基礎知識の習得よりも、社会学に興味をもたせる動機付けを促すことに重点をおいて進めるつもりである。具体的には、新聞や雑誌の記事の講読を通じて、政治・経済・文化などの分野における現実の動向を知り、それを社会的に解き明かすことによって、社会的な考え方を学びとってもらいたいと考えている。

また、この演習を通じて、研究課題を進めるのに必要な情報収集の仕方、資料の解読の仕方、さらにはその表現・発表の仕方を学びとって欲しい。

【講義計画】

演習は、新聞や雑誌の記事を教材として使用する性格上、どのような問題を取りあげるかは、2007年度の日本や世界の動向によって異なってくるので特定することはできない。しかし、政治・経済・文化など社会現象を幅広く取りあげることになるであろう。

また、新聞・雑誌を教材に使うが、社会の動向を的確にフォローするためには、テレビ・ラジオ・映画など他のメディアも参照しなければならない。そのために、各時間の冒頭で過去1週間のニュースの動向を報告させる。これは新聞をはじめとするニュースをみる習慣を付けさせるためでもある。

さらに、表現・発表の能力を養うために、指示したテーマに関するレポートの提出および授業での発表を義務づけるつもりである。

【成績評価の方法】

演習中の発表、質疑応答、レポートなどを参考に総合的に判定する。なお、演習科目であるから、出席状況も加味する。

【教科書】

演習に必要な資料は、時間ごとに配付資料として用意する。

【参考文献】

参考文献は、必要に応じてその都度指示する。

科 目 名

社会学科基礎演習

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

社会とは何か？ 社会学とは何か？ そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、私たちは誰もが社会のなかで生きている。私たちがいるから社会だって存在できる。

この演習では、できるだけ私たちに身近な事柄（恋愛、ダイエット、流行、なんでもいいよ）と社会全体とのかかわりを追求することで、社会学のイメージと社会的思考法を学ぶことが目標である。

【講義計画】

(状況をみながら調整するがおおむね以下の予定)

<春学期>

1. 演習をすすめていくための予備的な講義
2. 各自の問題関心の明確化
3. 資料探索、レジュメ作成の方法

(夏休みの課題：中間レポートの作成)

<秋学期>

4. 中間レポートの報告と討論
5. 年度末レポートの作成

【成績評価の方法】

中間レポート（1000字程度）、年度末レポート（8000字以上）、出席、討論内容等から総合的に評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

テーマ：身の回りからの社会学

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	鈴木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

映画の見方はさまざまあるが、映画鑑賞を通じて〈社会学する〉ことも可能である。本演習では、1930年代から今日までの日本映画の名作10本ほどを時代順に観ることを通じて、時代の変化、社会と人間の変容ぶりを見てとり、〈社会と人間〉を社会学に見る眼を養い、〈社会が人間をつくり、人間が社会をつくる〉という社会学的問題を思考しうる力を獲得することができるようにする。

またこのためには、ゼミ生相互の討論や各自の論文作成の実地トレーニングも必要である。そこでそうした諸能力の形成にも資するようにする。

**【講義計画】**

最初に『狼に育てられた子』を読んで、人間形成における環境の決定的意義を学び、その後映画を観ていく。映画は、小津安二郎『生まれてはみたけれど』1932、を皮切りに、戦中・戦後の黒澤明『一番美しく』、『わが青春に悔いなし』、今井正『青い山脈』、裏山桐郎『キューポラのある街』を鑑賞、その後は、たくさんの映画のなかからゼミ生の希望にそって数本を選んで観ていく。それぞれの映画鑑賞のあとに、感想を発表しあい、討論する。

論文指導は、適宜実施する。

**【成績評価の方法】**

(1) 出席状況、(2) レポート等の提出状況、(3) ゼミへの内容的参加の積極度、等の総合評価。

**【教科書】**

シング『狼に育てられた子』福村出版

**【参考文献】**

- 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫
- 熊沢・清・木本『映画マニアの社会学ースクリーンにみる社会と人間』明石書店
- 山田和夫『日本映画101年』新日本出版
- 佐藤忠男『日本映画史』全4巻、岩波書店
- 今村・佐藤・他『講座・日本映画』全8巻、岩波書店
- その他は演習で紹介する。

**【備考】**

テーマ：映画で学ぶ社会学ー社会の変動と人間の変容

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	竹内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

もやもやしているものが言葉を得て、すっきりすることがある。たとえばヘレン・ケラーの逸話の中に「water」の話がある。あれは、どういう種類の彼女の感動だったのだろうか？おそらく、手をぬらす冷たい液体の体感について、これは何だったかしらという「？」があり、そこへ「み・ず！」という言葉が入ってきた。そのときにもやもやが一気に晴れたということではなかろうか？学問も同じ構造を、本来、もっていると思われる。まず、経験の中に「？」が出来て、そこへ「！」という適切な言葉が入ってくるということなのだ。学校は、教育効果を高めるために、先生のほうで「？」を先手で出し、すぐさま「！」を与えてきた。言語界が自律するとそれでもよいけれど、まずは、何が「？」なのかを吟味するところから出発して、適切な「！」へ進むような実験を試みてみたい。

**【講義計画】**

有名、無名のいろいろな人々の発する情報を本、雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット、映画、ドラマ、芸術作品などから集めてきて、経験における「？」と言葉における「！」との往復を、私たちの対話の中でやってみよう。

**【成績評価の方法】**

出席、発言、企画、レポートなどを総合して評価する

**【教科書】**

さまざまなメディアから素材を拾うことにするので、固定したテキストは用いない

**【備考】**

テーマ：歴史の中の現代

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	竹 中 英 紀

**【講義概要・学習目標】**

テーマ：大学での学習と社会学研究の基礎

少人数の演習形式で、受講生がさまざまな課題にとりくみながら、「大学での学習の基礎」と「社会学研究の基礎」をしっかりと身につけることをめざす。

**(1) 大学での学習の基礎**

テキスト『知のツールボックス』を用いて、ノートのとり方や、本の読み方、レポートの書き方など、大学での勉強に必要な不可欠なスキルを実践的に習得する。またテキストには欠けているフィールドワーク（野外調査）の初歩についても学ぶ。

**(2) 社会学研究の基礎**

テキスト『教養主義の没落』を用いて、近現代日本における大学生とキャンパスライフの変遷を知るとともに、社会的な分析の「おもしろさ」に触れる。また随時、新聞記事や雑誌論文などを用いて、最新の社会事情に精通するよう努める。

**【講義計画】**

以上の「大学での学習の基礎」と「社会学研究の基礎」を並行させつつ、毎回の演習をおこなう（本に線を引く、メモやノートをとる、自分で言葉で要約する、他者の口頭発表にコメントする、司会を担当する、議事録をつける、など）。特定テーマについてのレポート提出や、グループ単位でのフィールドワークも予定している。

なお、5月の連休明けと、9月の夏休み明け、1月の冬休み明けの3回にわたり、各自の「おすすめブックリスト」（1回につき10冊程度）を作成し、教室で発表してもらうので、常日頃からさまざまなジャンルの読書を心がけること。読書ノート、読書日記などをつけておくとよい。

**【成績評価の方法】**

演習科目であるから、毎回出席して、課題をこなすとともに、他の受講生と協力してクラスを運営することが、単位認定の必須条件である。その上に、個別の発表やレポートの内容を点数として加算して、最終的な成績をつける。

**【教科書】**

- ・専修大学出版企画委員会編『知のツールボックス』（専修大学出版局、2006年、税込630円）
  - ・竹内洋『教養主義の没落』（中公新書、2003年、税込819円）
- ※2冊とも購入すること。

**【参考文献】**

- （大学での学習の基礎）
- ・石原千秋『学生と読む『三四郎』』（新潮選書、2006年）
  - ・木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994年）
- （社会学研究の基礎）
- ・荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社＋α文庫、2002年）
  - ・栗田宣義『図解雑学 社会学』（ナツメ社、2006年）
  - ・野村一夫『社会学の作法・初級編【改訂版】』（文化書房博文社、1999年）
- （その他、現代の日本社会について考えるために）
- ・阿部真大『搾取される若者たち』（集英社新書、2006年）
  - ・斎藤美奈子『冠婚葬祭のひみつ』（岩波新書、2006年）
  - ・嶽本野ばら『下妻物語』（小学館文庫、2004年）
  - ・速水由紀子『「つながり」という危ない快樂』（筑摩書房、2006年）
  - ・三浦展『ファスト風土化する日本』（洋泉社新書、2004年）
- ※このほか、随時指示する。

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

「青年の心理を考える」が当演習のテーマである。

青年期はいわゆる子どもから大人への移行期に当たる。心身共に人生の中でもっとも変化が激しく、それゆえ激動の時代とも疾風怒濤の時代ともいわれてきた。この時期は一般に前期、中期、後期に分けられるが、大学時代は青年期後期に当たる。いわば青年期の総仕上げをし、子ども時代を卒業して、大人の仲間入りを果たす最終段階である。しかし周知のようにモラトリアムが長く、身体は大人だが、精神はいつまでも子どもでいる人も多い。

当演習の目的は、当事者である新入生諸君が自分たちで青年の心理について考えながら、これから始まる大学生活に向けて準備をすることである。相互に意見交換をしながら、私たちは何処からきて、何処へ行こうとしているのか、どのようになりたいと思っているのかなどを考えるのである。

そのためには積極的な探求の姿勢が必要である。与えてくれるのを待つ受け身の学生はいらない。

**【講義計画】**

小グループに分かれ、さまざまなテーマを設定して討議や実習を繰り返す。討議の成果はクラスに口頭発表をする。またレポートにまとめてクラスで報告する。グループは適宜、組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。

また前期末、後期末にはレポートを課す。前期末のレポートをもとにプレゼンテーションするのが後期の主たる課題となる。

**【成績評価の方法】**

出席、報告、討議への参加、レポートをもとに総合的に評価する。

**【教科書】**

未定。

**【参考文献】**

随時、指示する。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4単位	松 永 俊 男

**【講義概要・学習目標】**

この演習では、科学と社会の関係を材料にして、大学で学ぶための基本を身に付けてもらう。すなわち、調べる、読む、聴く、考える、話す、書く、といった基礎技術を実地に体験して学習し、講義の聴き方、ノートの採り方、レポートの書き方、試験の受け方などを会得してもらう。

大学では高校や予備校と違って、決まり切った「問い」や「答え」があるわけではない。自分で「問い」を見つけ、自分でそれに答えようとする姿勢が大切である。この演習で、諸君が自ら問題を発見し、解決する習慣を養ってもらいたい。

**【講義計画】**

1. 作文演習
2. 図書館の利用
3. 資料収集演習
4. レポート執筆演習
5. プレゼンテーション演習
6. 討論演習

**【成績評価の方法】**

出席を最も重視する。遅刻は厳禁。教室で行われるさまざまな活動に、積極的に取り組む意欲が、評価の対象となる。

**【備考】**

テーマ：科学と社会

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4単位	石 田 あ ゆ う

**【講義概要・学習目標】**

この基礎演習はまず自分の関心のあるテーマの本を入手することから始めます。直接書店に行くもよし、インターネットを利用するもよし、古書店で購入するもよし、本当は現物を手に入れてもらいたいのですが、図書館で借り出してもらってもかまいません。本を読むのが苦手なことは単位認定に不利にははたきませんが、本を入手出来ない場合には単位を認めません。購入してもらおう書籍は指示しますので、第一回ガイダンスに参加して下さい。

その上で、個別にレポート作成や卒業に必要な論文を書くための基礎的な力がつくよう指導します。

**【講義計画】**

第1回の授業で基礎演習のガイダンスを行う。  
具体的な演習の内容については参加者にあわせて個別に対応する。

**【成績評価の方法】**

出席の度合い、課題レポートの提出によって評価する。

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

適宜紹介する。

**【備考】**

自分で書籍（一冊ではない）を入手してもらうので、そのつもりでいて下さい。講義時間以外にも呼び出すことがあります。

テーマ：大学での基礎学習：本の読み方から、論文・レポート作成まで

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

社会や文化全般における研究を、座学ではなく、直接現場に出向き実践しているフィールドワーク研究（エスノグラフィー）に基づいて書かれた文献や書物、研究論文を読み、フィールドワーク研究の意義、方法、実践について学んでいく。

**【講義計画】**

授業毎に与える課題文献、書物を受講生全員が読み、そのうち担当者（1名）はその文献内容を要約し、翌週発表する。担当者発表後は、残りの時間を利用して、担当者を含めた受講生全員でその文献について質疑応答、ディスカッション等を行う。課題文献としては、特に「教育」におけるフィールドワーク研究に基づいた文献・研究論文等について読み、要約していただきます。

注）全体的／基本的な授業の流れは上記に示した形で行うこととするが、進捗状況に応じて、要約、発表、ディスカッションという形式だけでなく、フィールドワークに出かけたり（予定）、その他関連する内容のテーマを導入し、授業形式を変更する場合があります。

**【成績評価の方法】**

1. 出席（コメントカードへの記入）
2. 授業への貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加）
3. 課題・レポートの提出（締切厳守）
4. 試験（予定）

以上により、総合的に評価します。

**【教科書】**

『ハマータウンの野郎ども 学校への反抗／労働への順応』  
 原題：LEARNING TO LABOUR  
 著者：ポール・ウィルス（Paul Wills）  
 訳：熊沢誠、山田潤  
 発行：株式会社筑摩書房

※上記の本に関しては、基本テキストであり、毎時使用するには限らないため、各自購入する必要はありません。必要部分やその他毎時のテーマに関連した資料、読みものはこちらで準備、印刷、配布します。

**【参考文献】**

その都度、課題に応じて紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	小 柳 伸 顕

**【講義概要・学習目標】**

「働けど働けど わが暮らし楽にならず じっと手を見る」（石川啄木）と言われてから約100年になります。この啄木の苦しみは解決されたでしょうか。

日本で一番早く労働の立場から「貧困」に着目した1人が横山源之助（1871-1915）です。横山が残した『日本の下層社会』（1899）を読み、「貧困」「労働」「下層社会」とは何かと考えていきたいと思っています。

**【講義計画】**

1年かけて上記『日本の下層社会』を読みます。この著作は横山28歳のときのものですが、決して読みやすいとは言えません。しかし横山が心血を注いだ結晶だけにいま学ぶことは多くあります。また、この著作を立体的に理解するために『イギリスにおける労働者階級の状態』（エンゲルス・24歳のときの作 1845）やわが国の労働者の実態を浮き彫りにした『職工事情』（1903）も参考にします。学生による発表と討論を軸にすすめます。

**【成績評価の方法】**

出席・発表・レポート（出席し、発表・討論に参加することが必須）

**【教科書】**

横山源之助『日本の下層社会』岩波文庫  
 受講者は必ず購入のこと。他の参考文献については必要に応じコピー等を用意する。

**【参考文献】**

- ・エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』—19世紀のロンドンマンチェスター 岩波文庫（上・下）
- ・犬丸義一校訂『職工事情』岩波文庫（上・中・下）

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	捧 堅 二

**【講義概要・学習目標】**

政治社会学を中心に、社会学のいくつかのテーマと現代社会の諸問題について勉強する。  
有名なドイツの社会学者ウェーバーの理論についても触れる。  
できるだけ映像を利用する授業にするつもりだ。

わかりやすく、楽しい授業をしたいが、この授業は勉強だけが目的であり、別に親睦をはかるとかいったことはしないのでご注意ください。

**【講義計画】**

- 1 政治家はなんのために権力を追求するか。
  - 2 「カリスマ」としての天皇
- 以下はまだ決めていません。

政治と権力、共同体（ゲマインシャフト）、近代化、官僚制、漂流民（サンカなど）、カリスマ、合法的支配、アソシエーション、政党、  
アメリカ政治、日本政治、靖国神社、天皇制、女帝問題、陰謀、差別、村落共同体などテーマから、学生諸君の要望を入れて、授業内容を決めたい。

**【成績評価の方法】**

A4 1枚の短い読書報告の提出を何度かしてもらう。  
簡単なレポートだが、何度も出してもらいます。

**【教科書】**

使用しない

**【参考文献】**

この授業は文献演習なので授業の際にたくさんあげます。  
以下は、ほんの一例

五木寛之『風の王国』新潮文庫  
五木寛之『風の王国』1, 2, 3アマーバックス  
森鷗外『阿部一族』岩波文庫  
礪川全次『サンカと三角寛』平凡社新書  
藤沢周平『蝉しぐれ』文春文庫  
牧野雅彦『共存のための技術』日本評論社  
マックス・ウェーバー『支配の社会学』I・II 創文社  
マックス・ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	清 水 夏 樹

**【講義概要・学習目標】**

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえて、以下各自関心項目を設定してもらう（例＝現代音楽、オカルト、宗教ブーム、漫画・アニメドラマ、メディア文化等）。  
－6,70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動態と諸相をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

**【講義計画】**

前期

大衆から分衆社会へ 青年世代の今昔と「聖」「俗」「遊」価値フレーム 高度情報化ともの・言葉・メッセージ。

後期

高度消費社会と記号論 バーチャルイメージとゲーム感覚、同じくインターネット空間、Self reference

**【教科書】**

未定

**【参考文献】**

講義中に随時紹介する。



科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	島 中 宗 一

**【講義概要・学習目標】**

文献演習は、文献の読解力、研究上のアイデアやヒント、社会的想像力などを獲得することがその目標である。

臨床系・福祉系のさまざまな専門職が台頭するなかで、それぞれの専門職はその固有の役割をどのように認識しているかについて、理念と現実の水準から検討する。フィールドを老人ケア、育児・子育てに限定し、そこでかかわる専門職を中心に、家族支援、コラボレーションの視点から検討する。また、家族を支援することの意味を確認し、その理念に近づけるための専門職のあり方を検討する。

**【講義計画】**

テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。

**【成績評価の方法】**

レポート

**【教科書】**

島中宗一編『老人ケアのなかの家族支援：各専門職の役割とコラボレーション』ミネルヴァ書房（前期）

島中宗一編集『現代のエスプリ 特集：育児・子育てのなかの家族支援』至文堂（後期）

**【参考文献】**

島中宗一『家族支援論』世界思想社

島中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	矢 嶋 巖

**【講義概要・学習目標】**

高い関心が集まる環境問題は、身の回りから地球規模までの多様なスケールで生じている。相互に関連し合うさまざまな環境問題の一つ一つを正しく理解することが、この問題を研究対象とする上での第一歩となる。本演習では、環境社会学の基礎文献を購読することで、みなさんが社会学で環境問題を研究していくための一助となることを目標とする。

**【講義計画】**

分担担当者を決め、教科書を章順に購読する。分担担当者には、事前に指示した関係事項について調べて発表することも求める。全員に毎回演習時間内での課題を課すほか、夏休み・冬休みに環境問題に関する論文についてのレポートを課す。さらに、環境問題への理解を深めるために、環境問題に関係する展示を行っている博物館の見学レポートを全員に課す。なお、教科書の章立ては次の通りである。

1. 蛇口の水はどこから？：水と地域社会
2. 歴史を刻み込む大地：土地と地域社会
3. 生活の舞台としての家：住まいと環境
4. 食から見える環境：遠い食、近い食
5. ゴミ問題の社会学：人とモノの関係性から
6. 自然の中の遊び：生物多様性と子どもたち
7. 生活環境の比較社会学：アメリカ、アフリカ、日本の比較から
8. 生成する環境学をめざして

**【成績評価の方法】**

担当した箇所の報告状況、演習参加の意欲、出席・遅刻状況、博物館見学レポート、および春学期・秋学期末レポートの成績などから総合的に算定する。遅刻・欠席の頻度や私語、演習に関係しない作業、報告担当時の無断欠席に対しては厳しく評価するので、そのつもりで挑みたい。

**【教科書】**

嘉田由紀子『環境学入門9 環境社会学』岩波書店, 2002年

※毎回必ず持参すること。

**【参考文献】**

伊藤達也・浅野敏久編『環境問題の現場から：地理学的アプローチ』古今書院, 2003年

その他、演習時に適宜指示する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	山 内 乾 史

**【講義概要・学習目標】**

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会的なものの方の見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

特に今年度は昨年度に引き続き社会の階層化と教育、フリーター・ニート問題の二つを中心に文献を講読します。

**【講義計画】**

授業で中心的に読むことを考えている文献は、以下の四つです。

前期

城繁幸『若者はなぜ3年で辞めるのか?』(光文社新書、2006年)、  
小島貴子『就職迷子の若者たち』(光文社新書、2006年)

後期

中野雅至『格差社会の結末』(ソフトバンク新書、2006年)  
門倉貴史『ワーキング・プア』(宝島新書、2006年)

**【成績評価の方法】**

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

**【教科書】**

上記文献を用います。ただし、文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。

**【参考文献】**

多数ありますので、授業中に指示します。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	渡 部 美穂子

**【講義概要・学習目標】**

社会心理学とは、人びとが相互についてどのように考え、影響を及ぼし合い、関係し合っているかについての科学的研究である。この演習では、米国社会心理学のエリオット・アロンソンによるテキストの講読をつうじて、社会的状況における人間の行動のパターンやその動機を学ぶことを目的とする。

この演習によって、同調、マスメディア、社会的認知、自己、攻撃、偏見、好意と愛といった広範な社会心理現象を科学的に解釈する力を養うことが期待される。

**【講義計画】**

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1. 社会心理学とは何か
2. 同調
3. マスコミ、宣伝、説得
4. 社会的認知
5. 自己正当化
6. 人間の攻撃
7. 偏見
8. 好意、愛、对人的感受性
9. 科学としての社会心理学

**【成績評価の方法】**

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

**【教科書】**

E. アロンソン (古畑和孝監訳、岡隆・亀田達也訳)『ザ・ソーシャル・アニマル —— 人間行動の社会心理学的研究』サイエンス社、1994年

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
<b>社会言語学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 原 始 子

**【講義概要・学習目標】**

社会の中の言語の多様な姿を身近な事例と基礎理論から学び、分析できるようになることを目指す。  
前期は、世界の様々な言語社会を取り上げて、マクロ的視点から人とことばの関わりを学んでいく。  
後期は、ミクロ的視点で、ことばの地域差、世代差、男女差、民族差、社会階層差を、日本語と英語を素材に概観し、ポライトネスと敬語表現、協調の公理といったコミュニケーションの基礎知識を身につける。

**【講義計画】**

- 《前期》
- \* 言語と方言 方言と標準語
  - \* 公用語・国語・国家共通語
  - \* 世界の英語 イギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジア・アフリカ
  - \* New Englishes (新英語) とは何か
  - \* 多言語社会と言語教育～アメリカ・カナダ・オーストラリア・日本
  - \* 言語接触～ビジン・クレオール
  - \* 言語接触～借用語
  - \* バイリンガリズムとダイグロシヤ
  - \* 民族とアイデンティティ

- 《後期》
- \* ことばの世代差～差若者ことばとシルバーことば
  - \* 若者ことばのアイデンティティ
  - \* アクセントとイントネーション
  - \* ことばの地域差～日本語の方言アクセントの変化
  - \* ことばの社会階層差～アメリカとイギリスの社会階級による発音の違い
  - \* ことばの男女差
  - \* 女性ことばのアイデンティティ
  - \* 日本語の敬語・待遇表現
  - \* ポライトネスと協調の公理

進度により、内容を変更する場合がある。

**【成績評価の方法】**

前期、後期に1回ずつのレポート提出と前・後期末の筆記試験によって総合的に評価する。レポートは必修なので、注意すること。

**【教科書】**

『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房 田中春美他著

**【参考文献】**

『シンガポールの言葉と社会』三元社 大原始子著  
『新世代の言語学』くろしお出版 飯野公一他著  
その他、適宜指示する。

**【備考】**

日常生活で使われていることばに敏感であるように心がけてください。

科 目 名			
<b>社会心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

社会心理学は、人間の行動を、社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。

本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の基礎的な概念や理論を身につけてもらうことが目標です。

「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合がありますが、社会学的研究への寄与を常に念頭においていたものです。社会心理学を学ぶことによって、心理学と社会学の差違と共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。「純粹」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

**【講義計画】**

以下のような内容を、それぞれ3回程度の講義でお話しする予定ですが、詳細については初回に説明します。

1. 社会心理学とは
2. 自己と社会化
3. 対人関係
4. 集団と組織
5. 流行と集合行動
6. マス・コミュニケーション
7. 情報化
8. 心理学化・心理主義化
9. まとめ

**【成績評価の方法】**

学期末試験、レポート、出席状況などによって総合的に評価します。

**【教科書】**

必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書を指定する可能性があります。

**【参考文献】**

安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店  
池田知子・遠藤由美 1998『グラフィック 社会心理学』サイエンス社  
岩田考ほか編 2005『若者たちのコミュニケーション・サバイバルー親密さのゆくえ』恒星社厚生閣  
末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会  
※その他、講義中に適宜紹介します。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会政策総論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 西 祥 恵

**【講義概要・学習目標】**

将来的にどんな暮らしを送るのかということを決めるのは誰にとっても難しい。とはいえ、人生における重大な局面で、自らの歩む道を主体的に選択するためには、労働や生活に関する制度がどのようになっているのかという点を最低限理解しておくなければならないだろう。こうした制度には、労働条件の基準となる労働基準法や、収入が途絶えた際に重要な役割を果たす年金制度、日本社会におけるセイフティ・ネットと位置づけられている生活保護制度などが含まれている。本講義の目的は、これら諸制度に関する基本的な事項についてしっかりと学ぶことである。

**【講義計画】**

1. ガイダンス 社会政策研究の系譜
2. 労働基準 (1) 労働基準の出発点と現状
3. 労働基準 (2) 労働基準の現状と課題
4. 労働市場 (1) 労働市場政策の成立と展開
5. 労働市場 (2) 消極的労働市場政策から積極的労働市場政策への転換
6. 労働市場 (3) 新たな雇用システムへの展望
7. 企業社会 (1) 企業社会と日本の経営
8. 企業社会 (2) 人事管理～会社法モデルと共同体モデル
9. 企業社会 (3) 今後の展望
10. 年金 (1) 年金制度とその財政方式
11. 年金 (2) 八五年改革の内実
12. 年金 (3) 八九年改革の内実
13. 年金 (4) 九四年以降の改革の内実と今後の課題
14. 医療 (1) 医療制度と診療報酬支払方式
15. 医療 (2) 健康保険制度と国民健康保険制度の成立と展開
16. 医療 (3) 介護の社会化
17. 公的扶助 (1) 生活保護制度の成立と展開
18. 公的扶助 (2) 生活保護制度の「適正化」問題
19. 公的扶助 (3) 外国人に対する生活保護制度
20. 公的扶助 (4) 不定住者に対する生活保護制度
21. 家族的責任 (1) アンペイド・ワークとしての家事労働
22. 家族的責任 (2) ジェンダー分業と労働者家族
23. 家族的責任 (3) ジェンダー分業と社会保障制度
24. 家族的責任 (4) 少子高齢化と家族的責任

**【成績評価の方法】**

試験、講義内での取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。

**【教科書】**

玉井金五・大森真紀編著『新版 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2000年（本体2100円＋税）。

**【参考文献】**

講義中に指示することがある。

科 目 名			
<b>社会調査A</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

この科目では、『社会調査入門』をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の綿密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

**【講義計画】**

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

**【成績評価の方法】**

出席状況、レポートなどの提出物、学期末試験の結果などを総合して評価します。

**【教科書】**

大谷信介ほか編著 1999『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

ハンス・ザイゼル 2005『数字で語る』新曜社  
 谷岡一郎 2000『「社会調査」のウソ』文春新書  
 森岡清志編著 1998『ガイドブック社会調査』日本評論社  
 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社  
 ※その他、講義中に適宜紹介します。